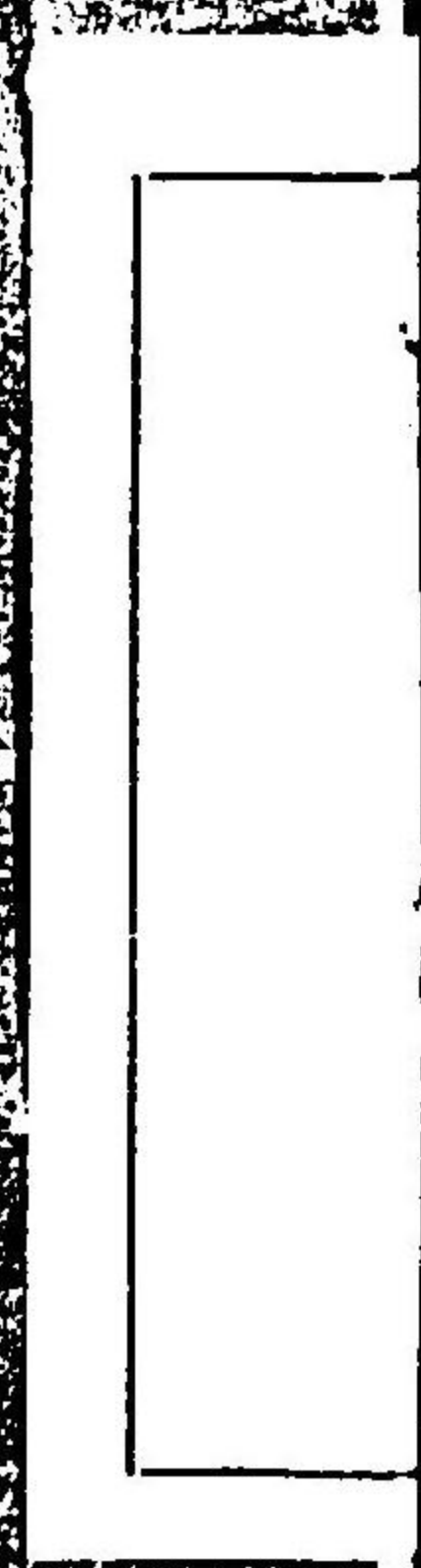


82

537

通俗眼
為
作

三郎
著



序

衛生の普及を計るには、衛生的志想の普及を計らねば、
ならぬ。静岡民友新聞社から頼まれて、眼の衛生の事を、
通俗的にかいたのが、この本である。別に腹案もなしに
その日／＼に書いていたのだから、たゞ重複のない丈
で、むづかしい順序などは、少しも頓着しなかつた。本に
するにも、矢張そのまゝでおくのは、反てよむ人があき
なくてよからふと思ふので、これですんだてもなく、す
まぬでもないが、實はまたかく積でもあつたけれど、今
度はこれ丈にしておくことにした。讀者諸君の御評判次

第で、乘氣になつて、また後をかかもしれません。

序

二

明治三十五年十月

診察室より

目次

(1) ← [次 目] →

一	眼の構造	一
二	眼も口程に物をいひ	三
三	眼の價	四
四	動物の眼	七
五	眼醫者と美術心	一〇
六	虎風眼(トラホーム)	一一
七	失明の文豪(曲亭馬琴)	一四
八	はげ眼(初生兒膿眼)	一七
九	義眼	二〇
十	視力と人の心	二三
十一	猫の眼調節機	二六

七十二 失明の勇士悪七兵衛景清……………二九

七十三 小兒と眼病……………三〇

七十四 色盲……………三一

七十五 眼病と迷信……………三二

七十六 卅三間堂棟木由來(夜盲)……………三六

七十七 まじない祈禱と病氣……………四一

七十八 眼と芽と女……………四三

七十九 としより眼(老視)……………四四

八十 眼鏡をかけると眼が弱くなるといふ事……………四七

八十一 眼病……………四九

八十二 小便と乳……………四九

八十三 わをそこひ(緑内障)……………五〇

八十四 つき眼(化膿性角膜炎)……………五五

二十五 専門家……………五五

二十六 やぶにらみ(斜視)……………五七

二十七 うみそこひ(白内障)……………六〇

二十八 眼から鼻へぬける(鼻涙管)……………六三

二十九 眼の上水涙腺……………六五

三十 風 眼膿漏性結膜炎……………六六

三十一 讀書燈輝照法……………七〇

三十二 教場と眼……………七三

三十三 偽目支那義眼……………七六

三十四 隻目の損……………七七

三十五 學校の窓採光法……………八〇

三十六 子供を學校へ出すお母さん方……………八二

三十七 病者と醫者……………八三

目次終

三十八 冷しいのは白い數寄屋……………八五

三十九 眼の一週は七十五日……………八六

四十 眼科と局所麻醉薬……………八九

四十一 眼病女と風引男そばかす女とにきび男……………九二

四十二 赤兒のめやみを看ぶなざる母親様方……………九三

四十三 母ちゃん御爺さんの眼鏡を私に頂戴な(遠視)……………九四

四十四 はしかと眼……………九五

四十五 眼病禁忌……………九六

四十六 病中食物の事……………九九

四十七 近視……………一〇三

四十八 學校衛生と眼科衛生學校醫と眼科醫……………一〇五

四十九 親の因果が子に報ひ(先天性眼病)……………一〇五

通俗衛生眼のはなし

醫學士 小川劍三郎著

第一 眼の構造

眼の構造は如何これが眼の話の第一にて少々わかりにくき詞なといはねばならないがこれも順序故御許を願ひたい。

眼球は寫眞師の用ゆる暗箱(カメラ)の様な者にて其形は四角でなくて球形なり其壁は木からでなく皮にて作らる、レンズは硝子製でなくて透明な組織と水の様な液体とから出來てゐる暗箱を前後左右に動すには寫眞師の手を用ゐるが眼球にては六の筋肉ありて自由自在にその位置を定めるとができる寫眞にては沃度銀の塗りたる紙に影を撮るも眼にては網膜といふ薄き膜ありてこれに寫りたる影は腦の裡

(2)

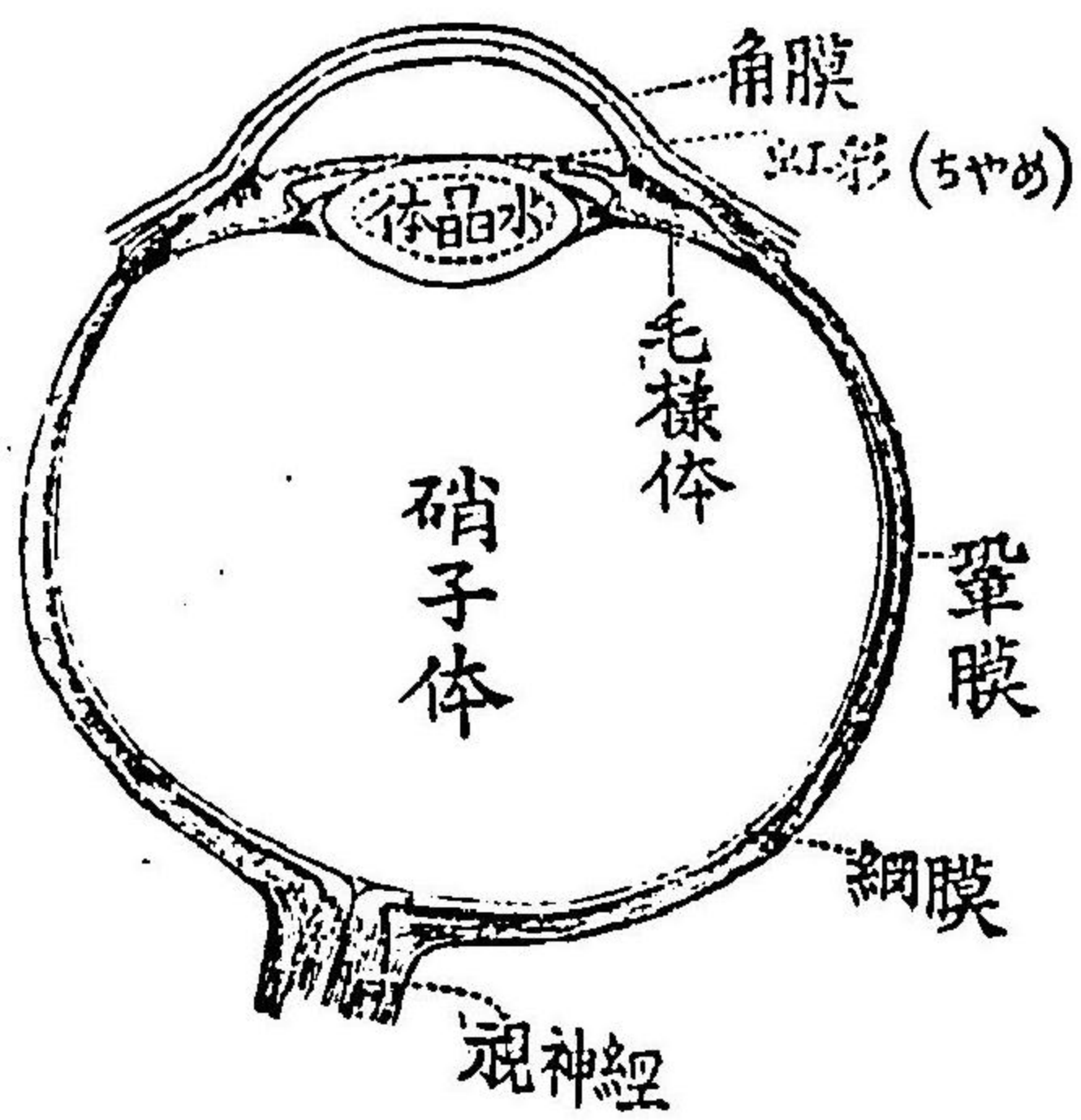
→[しなはの眼]←

に傳へられて、景色なり人間なり何なり吾々は視るを得るなりこの見るといふ感覺が聴く嗅く味ふ觸れるといふ四種の者と合せて五感といひて、この作用の爲めに吾人は身体外の事を知ることが出来るにて、この五の内にて見るといふ働が尤も高尚なるものなり、その高尚なる働を司る器を眼といふ。

眼球の形をなす皮を鞏膜(しろめ)といひ、後の方は葉物に軸のある様に細き紐の様なる視神経に連り、前の方には丸き透明の部あり之を角膜(くろめ)といふ、この内をよく見ると茶褐色の輪狀の部あり之を虹彩(ちやめ)といふ、虹彩は伸縮自在にて、その伸縮につれて瞳孔は散大又は縮少す、暗き所にては大に明るき所にては小なり、夜小供の瞳子の大なるを見て驚きて眼醫者の所にくる親達あれど、それは病氣にてはなく、たれでも暗き所ならば、大なり、夜小供の瞳子大なるとも、その小供を電氣燈の側

(3)

→[ひいを物に程口も眼]←



第二 眼も口程に物をいひ

につれてゆきて見れば、瞳子は必ず小なるべし、瞳孔より内部は肉眼にては見へねども、解剖して見れば、瞳孔の後には、虫眼鏡様の透明な水晶体といふ者あり、その後には硝子体といひて、矢張透明な寒天の軟かな様な半流動体あり、角膜より硝子体までは何れも透明にて、よく光線を透すと暗箱と同じ、これ丈の事は魚の目にもわかる故、諸君は晩餐の時、膳の上の魚の眼玉をとりて、二つに截り給ふべし、内より硬き小なる玉の様なるが出る、それが水晶体です。

愛嬌溢るゝ許といふは眼のみの所作にてはなけれども眼も口程に物をいひとは古から人の云ふ所にて時に千萬無量の思ひも秋波一瞥の中に含まるゝ事ありやふにらみをまちがへて急に容姿作る人もありとかや眼は心の鏡ともいひ地藏の眼は柔和に観音の眼は慈悲に子供は無我にして不動の眼は嚴肅なり鐘馗の眼は勇敢にして巾着切の眼は豺狼の心を示し守銭奴の眼に貪慾の意現はる鬼の眼恐ろしげなれど涙を流すときは憐れなりこれは眼が話をするといふ話なり。

第三、眼の價

眼の價幾何かと問はるれば千兩か萬兩か百萬兩か今百萬兩を呉れるで一眼を賣れといはれて承知する馬鹿者はあるかも知れぬと兩眼見えぬ人が百萬兩出すで一眼でも見へる様になりたい一目子供の顔が見たいといふたとて出来ない相談である昔し杉山檢校が或時將軍様

から何んでも望の者をとらすると思ふ通りを云へといはれたときせめて片目でいゝから眼が欲しいと答えた公方様でもしかたなくて本所の一つ目に屋敷を下されたといふ話がある何んと憐れな話ではないかそんなに強い豪傑でも目が見へなければ子供にもまける當世の畫伯久保田米憊がいくら靈妙の腕があつても眼がつぶれては仕方がない他の所とはちがつて眼は大切ですからとは眼病みがいふけれどさて中々粗末にする人が多くてこまる諸君なせ暗夜に提燈がいりますか電氣燈はランプよりなせいですか夫れがなければ吾々は一寸さきが見えぬからではありませんか一晝夜二十四時の半分は夜でさへ見えなければ大變にこまるのが若し二十四時が年中暗かつたらどんなに不自由でしょう目の視えぬ盲人はこの不自由をうけておるのでそれを考ゆると眼の價が幾何たがとても計算の出来る者ではありません。

(6)

眼かどれ程大切で必要の者だか、といふ事は、諺のなかに眼の事は澤山
あるので、わかります。

佛作つて眼を入れず(毛吹草)

畫龍點睛

かんじんかなめ

天に眼

目は人の眼

群書類聚を編纂して名を末代に知られ、さて目ある人の不自由さよ。
といひたる、塙檢校か。ある年京都に上りて、縉紳家を訪ひたる時、南殿の
櫻盛なり、ときよて。

目は見え、せめてなてんの櫻かな、

といひ、また、月見の宴にて。

花ならば、さくりても見ん、今日の月、

→[しなほの眼]←

といひたる。余りに憐れならずや、春は花秋は月と、遊ぶも眼ありての上
の事なり、眼なければ、花は幹を探るのみ、月にては猿猴ならぬ人間な
ら、さぐるとも、できぬなり。月花は時の詠め、見た所て、時間つぶし、といふ
も、駿河の人、日本の人の譽とする、富士の姿も、眼なければ見えぬなり、同
じ檢校が、

月花は、さしてそれとは思はねど、

富士としきけば、涙こぼるゝ、

と述懐の歌あり、見えぬ眼に涙こぼるゝ、程世にあはれなる事はなむ、諸
君御承知の朝顔日記を、きゝ給ひたる事あらん、女の眼さへ見えたらは
河原で、次團太ふひせはもなく、忠義の臣を、殺すにも及はざりしなり、眼
の價若干、諸君は千萬兩ならば、賣り給ふか、買ふ人は、ありますよ。

(7)

→[眼の物動]←

第四 動物の眼

眼といへは何んでも第一に述べた様の者と思ふも實際は動物によりて種々の相違があつて精粗色々で構造に差がある通りに其働き方にも甲乙あるものなり動物が下等になる程眼の構造は簡單にて視る力も鈍きもので海月類螺類の目は色素を持ってゐる細胞丈にてその細胞の内方から神経を出してゐるこの細胞が、一列に列ひて作りたる膜を網膜といひます体の或る部にこの網膜がある丈でそれが少し進んだ動物になるとこの膜に少し凹みたる部を生じ管状を取る様になります。ヨメカサラの目はこの種にてヒグリマイ、ゲンゴウウなどになると又少し進みて網膜が深く内部に位して表面に角膜様の者が出来る。アオバイトンボなどの昆虫類では小さな眼が澤山集りて複眼といふものをなしており蟻は五十蝶は千七百からできてゐる複眼を持ってゐる百の千の澤山眼があつても働き方になると極く不完全の者です動物の内でも尤も高尚なのは脊推動物といふて人間もこの種類の内に

はいるのですがこの内の魚爬虫類兩棲類鳥哺乳動物等凡てこの類に属して人間はこの内にて尤も高等最上位にあるもので従つて眼の構造も尤も精巧で其視る力は尤も都合よくできてゐますトンボやノミ、など尚下等の物になると唯だ明いと暗いとの區別がわかる許りの者もあり高尚な脊推動物でも一種でなくて鳥は遠くを見る事は中々達者でも近くはそれ程でなく晝は見えても夜はかいくれ見へないなどいふ不便があるが人間では遠くても近くでも御好み次第晝夜何つでも御用ひなさいといふ至極上等で人間が動物中の王様である通り眼も人間のは動物中の眼の王様なのですこの王様がトラホームにかゝつたり風眼やそこひになつたり目星が出来たり雲がかゝつたりすればだんく下落する譯です折角持てゐる王様をろくでもないものにするのはおしひものではありませんか石川氏大動物學第一卷第一冊

第五 眼醫者と美術心

眼は人間の美の代表者ともいふべき者で、女は髪が長く漆の様に黒く富士額で頸足がよく、ビイドロを倒にした様にきれいで、眼の形がわるく、眼の周りにいやな傷でもあると、玉子に目鼻といふ譯には、ゆきません、その大切な顔の雑作中、一番重要な者を扱ふのが、眼醫者ですから、眼醫者は、美術心を發達して、ゐなければいけません。ものもらいが出来ても、縦に傷をつけたら、どうです。或時私の處へ、或る有名な美人が來ました。それは、ものもらいでしたが、ついてきた、こわい婆さんがいふに、わたしは、残る様なら、賣物の値が下るで、御免被るといふのです。當人の美人は、いたくない様に、といふのです。どちらにも御尤の次第故、いたくない様、さすの残らぬ様、療治してやつた事があります。外科醫と、ちがいに、中々後で、とんだ苦情を持込まれる事があるので、同じ療治するので、

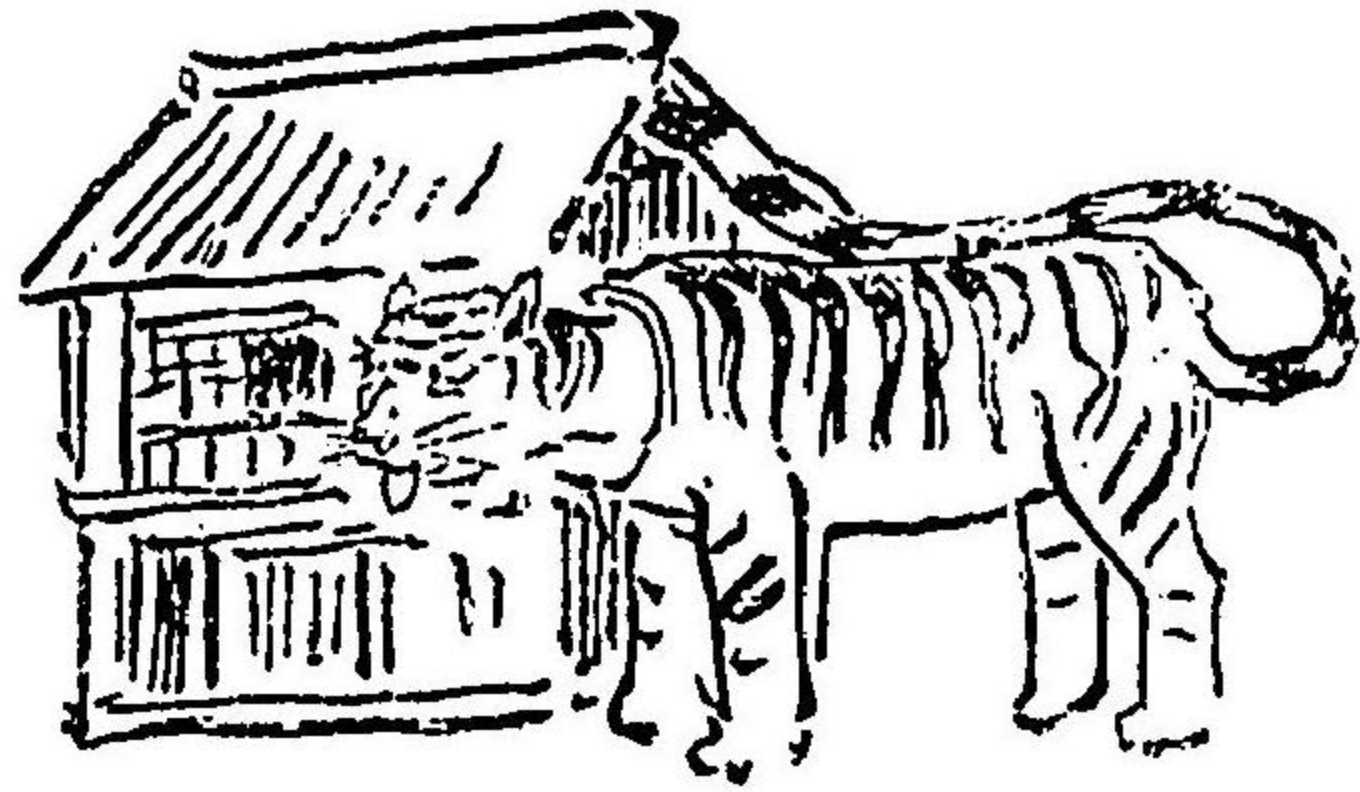
見た處のよい様に、しなければなりません。大層にいへは、眼醫者は美術心を發達させねばなりません。

第六 虎風眼

虎風眼とは、トラホームを訛り傳へたので、同じ誤りでも、中々面白い誤りで、風眼といへば、昔時から眼の病氣では、重くて、急につぶれる、恐しい病としてゐるので、その恐しい上に、虎が加はつたのだから、その位恐しい者だか、わからないので、古語に、虎を市に放つが如し、といふのが、あるが、どうです。この虎が、しかも風の勢をかりて、ゐるのだから、大變な譯です。學校の生徒が、一人トラホームにかゝれば、虎を學校に放つて、小供達が逃げ廻つても、倒んだり、喰はれたり、ひつかゝれたりする様に、その學校の生徒は、だん／＼に、傳染して、たゞ、眼やにめ、さかまつげ、はしめ、くも、尙甚しひのは、それが本で、盲になる者もあるのです。中々、大變な害を被るの

← 眼 は の し →

です。先年浮月樓で、縣下三州聯合醫師懇親會を開いた時に、松岡友吉君が餘興に病名展覽會をひらかれた。その中に、トラホームとして、玩具の



家で、虎とを列べられた事があつたが、これは松岡君の頓才で、虎と英語のホームにかけて、酒れたものだが、眼醫者から見ると、一軒の家にトラホームの患者が一人あるのは、前の學校の話しとおなじで、虎を家の内におく様なもので、險呑千萬である。しかも、手放しておくので、そのトラホームになつてゐる一人が不注意に、めやにが出れば、誰れのもかまわず、手拭でも、ハンケチでも、手當り次第にふくし、他の者も、めやみの使つた者を使ふ。こんな風

← 風 虎 →

が遊びに来て、人の子に傳染する向の御爺さんにも傳染る。近處中の大騒動となるので、大きいいへば、國家經濟にも關するといふ譯になる。一人の稼人が、眼がわるくて、一日に五十錢づゝとるのを、とらすに、十錢宛樂代を拂へば、一日に六十錢宛の國の損になるので、それが、一ヶ月續けば、十八圓の損。壹年なれば、二百十六圓の損になる。壹人や、貳人で、なく百人千人なれば、大層な損になるので、茶の芽の出るといふ大切な時に、一夜霜が降つたといふのと、全じ事です。その大損の元は、何かといへば、どこかの家で、虎をかつて平氣で、ゐたのが悪いのです。さあ、さう考へると、家と虎とで、トラホームと洒落たのが、大きな誠めになります。なんと皆さんの御宅には、虎はおりませんか。いたすらものは、去年かその前の年で、どりつくされたかも知れませんが、虎はどうですか。小學校の先生か、心切に醫者におかゝりなさいと、いふても、なわに大した事があるものか、なご、平氣で吞氣に、うつちやつては、ありませんか。御宅を探して

若し虎がおりましたら、どうか、一日も早く追ひ出した方が得ですよ。若しいふ事をきかない虎がゐたら、私達眼醫者が清正氣取に征伐して上げます。

第七 失明の文豪(曲亭馬琴)

日本文界の奇書といはるゝ八犬傳の著者、曲亭馬琴は、八犬傳の第九輯百七十九回を草する頃に、兩眼を失つて、臘月夜に立に似て、一字も寫事ならずせんすべなくて、書案を退け筆を投捨て、歎息の餘りに、

奈からふる、かひこそなけれ見えずなりし、

書卷川に、猶わたる世は、

と詠じたるも、大團圓まで綴らんと志やまず、己れが嫁女に代筆させたり。その時の苦心のさま、馬琴の文を見ると察するに餘ありです。代筆させて、一字毎に字を教へ、一句毎に假名遣ひを誨るに、婦人は普通

の俗字だも知るは稀れにて、漢字雅言を知らず、況て教を承けて寫者は、夢路を辿る心地して、困じて果ては打泣めり、然而代寫一枚に滿れば、讀反させて又教で傍訓を寫するに、熟字を知らず、又句讀をこゝろ得ねば、讀時は或は字を脱し、或はなき字を添て讀めり、讀すら輒すからざるに、知らずこゝろ得ざる事を口授せられて、寫く者の艱難を思へはいと痛しさに、幾度か已ばやと思ひしを、又思ひかへして、

筆捨の、松のふる葉も、言の葉も、

子等におしえて、かゝするぞうき、

どうち詠じて且慰めつゝ、一二巻代寫させぬる程に、彼れもやうやくに熟れて苦心初の如くにはあらず、偏傍な途は稍わかきまへ知りて言を費すも舌の疲るゝまでに至らず云々(八犬傳回外剩筆)。

馬琴の根氣のよいには驚くです。清人毛聲山が、老後失明して、子弟に口授して琵琶記を評註せる事をもかきそへて、毛聲山が文字ある子弟に

代寫させたるにくらべて巳れの文字なき婦人を使ひたる苦心の程その不自由さの程くりかへし〜て昔者の文場に遊ひ難きを難じ水母は鰓を以て眼となすときくに眼にする鰓さへ得難しといふて、愚痴をならへてします。

諸君馬琴が歎息をきけば、いかに失明の不自由なるかはわかるでしよう。馬琴の眼をつぶしたのも、急な事ではなくて、九年前八犬傳をかきをわりたる時より、ある朝不圖起出けるに、右の一眼見る事を得ず、打驚き且訝りて故兒に示すに、瞳子上の方流れたり、療治なさるべしといはれたるも、これは年來筆削の疲勞なるべしと、醫にもかゝらず、その後五年をへて左眼もかすみたるも、眼鏡の曇りたる故ならんといひて眼鏡を掛替へ〜凌きたりといふ。この初めかすみたる頃から、その道の者の療治をうけたら旨となりて不自由するともなかつたでしよう。文學の人許てなく、何の業をする人だとして、眼がなくては仕方がないので、何

しても病は初めが大切ですので、大事にならぬうちに十分手當をなさらんと、あとで後悔してもおいつかぬ事です。だめにしてからやつて来て、なせ治らんでしよう、などといはれるのは甚だこまるのです。

第八 はげ眼(初生兒膿眼)

昔は、なに昔し許でなく、今でも生れた赤兒の眼からやにが出ると眼の毒がとれるので、でないよりは、はでる方がよい事と思つてゐる人が多いため、赤兒のめやにのであるのは、はげ眼といつて平氣でゐる家が澤山ある。これは大變に險呑の事で、このために、つぶれるのが中々大層な數あるのです。これは、どうしてくる病かといふに、母親の腔部といふて、兒体の産れる道に、痲病性炎俗にしようかちがおつて、そのをり者(分泌物)が産れる途中か、又は産れた後で赤兒の眼にはいるのが、原因です。それです。すから御産のときは、消毒を十分にしなければいけないのです。昔から

御産は不浄だなどといふて、妊娠になると、ぼろを集めた位で、きたない物を使った習慣があるので、産婆は新しい物をつかいたがるなど、こいどをいはれるのに閉口するそうです。産科婦人科の人がやかましく消毒の事に注意するので、ふだんから産婆の連中にはきびしいひつけてをると、今いふた様に御産にはぼろきれを使ふ積である家へいつて、消毒的に無毒的に、わるい微菌などのない清潔なものをつかふと、その家からは餘計な金がかかるといつて、さらはれ、そうかといつていゝかけんにすれば、先生にやつ、けられるので、一寸板ばさみといふた様の工合で、産婆の連中はこまつてゐるそうです。が、これは御産の事を不浄だなど、考へたのが、そもゝのまちがひで、氣管枝炎だといふては、清水へ行き、腰が痛むといふては、熱海へゆき、三月だといふて、白酒をのみ五月だといふて、柏餅を食ひ、歩行もしない小供の着物の裾模様を彼此いふのに、人間五十年の尤も大切な産れたときに、ぼろをつかふといふの

はなんの事です。御祝にぼろを着せても、せめて産れた時の道具は新しい物をつかひたひものです。話しが少しわき道へそれたが、このはげ目といふのは、大人でいへば、風眼で、恐ろしい者で、まちがへば、一生不具でくらすせなければならぬです。親達は勿論、その外の人達も氣をつけねばなりません。赤兒にめやにが出たら、一時も早く眼醫者に御かゝりなさい。私の経験では、黒目に雲のかゝらないうちならば、大低貳週間で全治します。生れ子に關係の深ひのは、産婆ですから、西洋では初生兒眼は産婆の責任で、若し産婆が知らずにでもをれば、罰金をとられるのです。その病氣はめやにが出てからでなく、そのせんに、豫防の方法で、クレーヂ氏法といふて、完全な方法があります。それは産れた時、臍帯をきりたるどきに、硝酸銀の液を點眼するので、この方法が発見されてから大變にこの病がへつたので、その前にはこの病の爲につぶれた盲は、盲の一割百人で、十人宛はあつたのです。この病の事は、色々御話しいたし

第九 義眼

たい事もありませんで、またこのつぎにかきましよう。

一眼がつぶれても視るのに不自由はいふ迄もないが容貌の見にくくなるので、義眼をする薄い鬚の人が黒いコスメチックをつけるも同じ譯です。去年の暮に下石町の外科専門の富永勇君が来て義足で有名な鈴木祐一君が義手足纂論を編輯するに就いて、義眼も全じ様な者だて眼科専門の人に義眼に就て何か書いてよこしてもらひたいと頼れたが、何か書かないかとの話ゆへ、富永君に頼むで、鈴木君へ次の如き文を贈りました。

平忠光頼朝に近かんが爲めに魚鱗を眼に嵌せりと、これ敵人を欺かんとが爲めなり、隻眼失明せるの人、其狀醜惡なるときは、視力に益なくも其外貌を好くせん事を欲せざる者なし、獨眼龍伊達正宗不出世の

雄にして、且つその盲眼高く腫起して、葡萄状をなし、人の爲めに嘲笑せらるゝを嫌ひ、自から小刀を以て之れを抉出せりといふいはんや、少壯妙齡の婦人、深閨の處女、不幸にして隻眼、或は灰白、或腫起、俗に所謂田螺を踏躐せる如き時は、自ら其醜態を耻ぢて、誓つて人を見ざるべし、余は眼科を専門とする者なり、義眼の用たる鑿視に益なしと雖も、其貌を好くし、以て醜を掩ふに足る、即仁の端と稱することを得、若し夫れ其外貌を好くし、併せて其本來の能を充す者あらば、如何盲者は明を新たに、し三千年再びこの世に生れ來りたる如き者なり、惜ひ哉、吾が眼科に於てこの事なし、この事あるは義手足なる哉、義手足の用たる、切斷せる肢端を補ひて、其外貌を好くするのみならず、併せて其本來の能を盡くす事を得るものなり、鈴木祐一君、不幸にして其一脚を失ひたるも、義足を使用して、略ぼ健脚に劣らざるを知り、惻隱の心之れを私にする能はず、遂に義手足纂論の著あり、世上に配布して

之れに由て、都鄙何にあるも、容易に義手足を製作するを得せしめ不幸の失を忘れしめんといふ。なんぞ、それ仁なるや。思ふに吾が眼科義眼の用を以て、唯だに其貌を美にするのみならず、併せて監視を助くるあらば、其人民を益する幾何ぞや。吾が邦、大阪の某氏、先年有視義眼發明の事世に傳へられたるも、これ一時の狂煙の如くにして、今や杳として音なし。獨國ザルツエル氏亦この事に勉むる事、多年未だ成效の報なし。眞に惜むべし。鈴木君が巧に義足を使用して、健脚者に等しきと、またこの纂論刊行の舉をきゝて、感慨多時、即ち思ふ所を記して以て君に贈る。

明治三十四年十一月

義眼は都合よくはまつた時は中々よく動ひて、一寸素人の方には、見わけがつかない事があります。義眼をして寫眞をとつたり、見合ひをして後で知れたなど、いふ話もあるのです。然し色の工合や、大小など中々う

まくいく事のむつかしい場合もあります。私の處にも、五十や六十は時へてあります。が、ふいと来た人に、うまくはいるともあり升。

第十 視力と人の心

視力が教育に大關係のあるとは誰しも知つてはゐるが、眼の見えぬ時は、人の心は偏くになり易きものです。此頃は義太夫が中々流行するで、讀者諸君も知つてゐるでしょうが、壺阪靈驗記の澤市内の段です。ね私は、義太夫をさきく耳は持てはゐませぬが、あの壺阪はまことによく出来たもので、景情趣の凡てに矛盾がない。情がよくとゝのふてゐて、讀んだいけでも涙が出ます。お里が見えぬ夫の手をひきて、阪を上りゆく所など、實に上出来です。未だ御知にならん方があれば、せひきいもごらん。なさい。それはどにかく薄き烟も立てかねて、夫の手助けぬひ洗濯や、使ひあるき休まる暇もなきうちに、三年の間七ツの鐘をきゝ、人にしらせ

す抜けいで、かよわき女の只一人山路厭はず、壺阪の観音様に願かけ
 て生れもつかぬ疱瘡で見無なりし夫の目をばなほさんと、雨の夜雪の
 夜霜の夜もいとほぬ、愛艱難實に愛が情か情が愛か、たゞ一筋に夫の爲
 め、私の体は御前の體、夫婦のちぎりは二世一体と思ひつめ、木の間をも
 る、月影に透し見て呼べと叫べと、其甲斐なきに南無阿彌陀佛の聲を
 殘してせめては死出の手引やせんと、幾何丈と知れぬ谷間に飛びいり
 し、おはれにもまたけなげなる、お里は貞女の鑑どやいふべき、三つ違の
 兄さんど、いふてくらしし筒井筒、ふりわけ髪その昔よりの云號とい
 ひ互の心も知り合ふて居るべきに、何事ぞや、澤市の濁す詞のふしく、
 外に男のある様に、情氣にも餘りあるべし、澤市が貧しく暮して顔形み
 にく、ども眼さへ見えたらばお里の朝夕の行も見えて、愚痴の心は起
 る事なかるべし、眼の見えぬ人は己の体の外の事は、きくとさぐるとよ
 り外には知れぬ爲めに、己れの見えぬにつけてみて、人は何をやるや

知れぬと思ひをるなり、これは競争の激しからぬ昔よりの事なるに、近
 來世の進むに従ひて、稍もすれば眼あきが眼のみえぬ者の職業を奪は
 んとする者すら生じ、尙その上に不具者をおはれますして、おなぞらん
 とする傾あるが爲めに、盲人の心はいやが上にもひがひ事となるので
 つまりこれは、失明者に對する社會の待遇宜しきを得ざるに、よるもの
 です。近來訓盲事業も追々に我國に發達して來ましたが、どうにでもし
 て、盲人に教育の道をひらかないと、澤市の様にひがみ心がつり、その
 常人の損のみでなく、大なる害を社會がうける事になります。丸で見え
 ないといふ程でなくても、視る力の少い人は、どうも性質が圓滿といふ
 わけにゆきません。この事は、大變教育に關係する事で、小學校の先生方
 は御存知でしょうが、耳か遠かつたり、眼の力のよわい小供は、覺えもわる
 くすなをでないものです。教育が何によつて、尤も多かつぎこまれるか
 どいへは、口鼻耳よりも一番眼によるのですから、それで考えても、視力

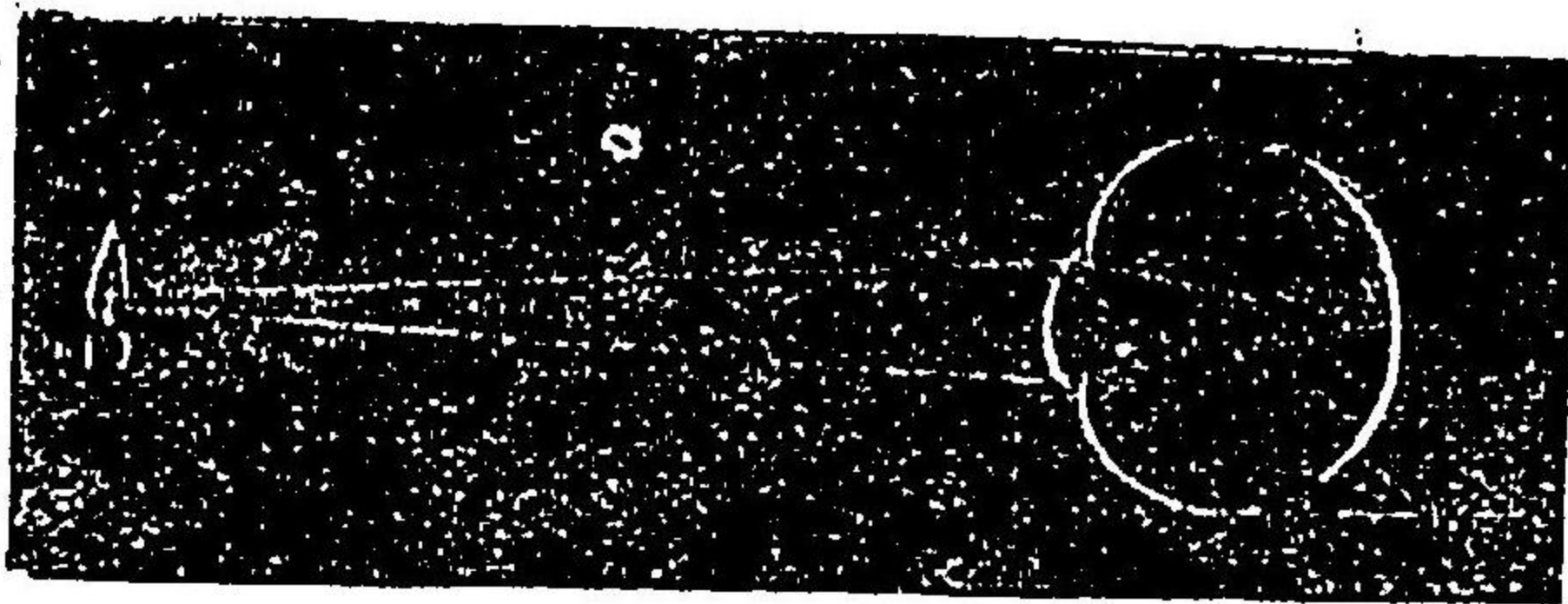
が人の心に非常の影響を及すとはおわかりでしやう、

第十一 猫の目

←[しなほの眼]:←

上り目下り目ぐるぐ廻つて猫の目猫の目が二六時中變化して時計のない時代にはそれで時刻を知つたといふのは誰れでも知つてゐることとて猫の瞳孔は夜は丸くて朝から次第に細くなり昔でいへば午の刻今の十二時には細ひく糸の様になる。晝から夜になる程だんぐに太くなつて夜にはまん丸くなるのです。お母さんこのミのめぼどけがなくなつてよと可愛らしい嬢ちゃんが不思議に思ふのはなせてしよう御母さん方のうちに、そりやあたりまえさね、もうお晝だものといふ許でなせお晝になれば猫の瞳孔が細くなるかは知らない方もあります。これは、中々大切な事、めぼどけは眼球内へ光線が入る處なので、光線が強いときはこの入口を細くし、光線の弱いときには

←[眼の猫]:←



太くするので、人間の目にもある事です。皆さん御自分の眼を鏡で御覧なさい。晝日中には、めぼどけが小さくて、夜あかりのくらい所程めぼどけが大きいです。人巧が天工を奪ふなどいふても、中々天工の微妙なるには、感心の外はありませぬ。この瞳孔の後に水晶体といふ虫眼鏡の玉の様なものがある。それは葛粉をかたくどかした様なもので、晝の内にはいつてゐて、その晝の周りから細ひ紐が幾百となく出てゐて、側にある毛様体といふ所についてゐます。つまりその幾百の糸で、晝を張つてゐるので、その紐がゆるむと水晶体の厚が多くなる。虫眼鏡でいへば、中凸の高さが増す理學の方でいへば、屈曲の度が増すので、紐がゆるむと、玉の力が増減がめぼどけの大さど一所にできるで、瞳孔が大

きくなれば水晶体は厚くなり、小くなれば薄くなるので、寫眞ですと、遠い所を撮るのと、近い所を撮るのでは、カメラの前の方にある玉をかへねばならないのです。人間の眼などでは、遠い所を見ようと思へば、瞳孔が小くなり、それと一所に前に云ふた紐が張つて、水晶体の度が減し、近い所を見るときは、瞳孔が大きくなつて、それと一所に紐がゆるむので、水晶体の度が増すのです。この働を眼の調節力といふて、この力がある許で、吾々は遠い／＼さきの帆掛船も見へるし、近い／＼すぐそばにある新聞や本をよむと、目が出来るのです。是丈ではまだおわかりにならないかも知れませんが、とにかく瞳孔が大きくなつたり、小さくなつたりするものは、遠い所を見るのと、近い所を見るのでも、ちがうし、また光線が多すぎるときに、光線のはいる所を小さくするものだと覺ておいて下

りなす。

第十二 失明の勇士(悪七兵衛景清)

頃は壽永三年三月下旬の事なり、平家は船源氏は陸互に勝負を決せんとす、中にも平家方能登守教經を始として、去年はりまのむろ山備中の小嶋ひよどり越にいたる迄、一度も利なかりしは、ひとへに義經がはかりごととなり、この度は九郎をのがすまじと勢込んでひかえたり。この時判官なればとて鬼神にてはよもあらじと陸にはせ上り、夕日影に打物とつて戦ふうちに、手どりにせんとて、みはのやを追ふてゆき甲のしころを追とり、えいやつと引く程に、しころはきれて、此方にとまれを、主はさきへにげのびて、おそろしや、うでのつよさよといひければ、みはのやが頸の骨こそつよければと笑ふて別れたる平家の侍悪七兵衛景清といはるゝ勇士も、兩眼しめては、松門獨どちて年月を送り、みづから清光を見ざれば時のうつるをもわきまへず、暗々たる庵室に徒らに眠り徒らに

おきてせんすべもなく、なさけわる人々の憐れをうけて命をつなぐのみ相撲國を立ちいで、はるく日向の宮崎までならばぬ道も父ゆえに心つよくもたづね來し娘人丸に名乗りわいながら成人せる姿を見るとき能はずやせたる腕にかきさぐりて昔語りするのみなるは已が姿のやつれたるよりも、せつなかりしならん景清如き勇者も眼なれば三歳の小兒にもおどるべし景清如何に豪なりとも源氏の盛榮を見るはいふとも娘の顔は見たかりしなるべし。

第十三 小兒と眼病

小兒は眼の養生など十分にどいぬゆえに眼病にかゝる事思の外に多い者です。マダヌス氏の調査では外來患者四千人の内で一歳から十五歳までのものが一千五百人即ち百人で三十八人あつたといひます私が昨年外來患者の二千三百人のうちで七百二十八人即ち百人中に

三十一人七分を算へました小兒は一体に發育の時代ですから不十分勝ちて病氣に侵され易いのです。その上に自分で注意するといふ事はできませんから、尙々多くなるのです。ですから親達がよく氣をつけてやらなければなりません。眼が赤いとか、まぶしがるとか、めやにが出るとか、夕方物につつまずとか、黒目かくもつたとか、瞳孔に影がうつらぬとか、何んとかいふ事は親がだまつていたのでは、小供の方からどうかしたらふなぞ、思ふ事はないのです。

第十四 色盲

戀には目なし鳥だなど、意氣な文句をかづき出して當世流行の所謂神聖なる愛などいふのでなくて、いろめくら色のみえない病の事をお話しやうと思ふ有名な英吉利の理學者ダルトン先生がこの病を持っていたといふので、一名をダルトン氏病ともいひます。治療することも

できず、豫防する事もできない病ですが、色々の害を生ずる事があるのです。それで青い色のわからないのもあり、赤い色のわからないのもあります。この爲めに、どんな損害があるかといふと、畫工、染工など、完全にその業をとる事ができないので、尙甚しひのは、海軍、陸軍、鐵道などに、色で信號をしますが、それを扱ふ人、又は信號を見わける人に、この病の人があると、大變な事が持上るので、一千八百七十五年十一月十五日に、瑞甸國、ラーゲルンダーの鐵道の驛丁が、色盲であつた爲めに、信號を誤つて、汽車の衝突を起した事があります。西洋では、これに懲りて、鐵道驛夫や、水夫には、嚴重なる検査をして採用する事になつてゐます。この病は、西洋の方が、日本よりは、多い様です。獨逸のプレスラウにゐる有名な眼科の先生ですが、コーンといふ人は、一千八百七十七年に、プレスラウで、二千四百二十九人の學生を検査して、百人に四人の割合に、この病の者があつたといひます。その外の人達の調でも、百人に三人位はあ

るといつてゐますが、日本では、ドーモそんなにはない様です。然し全くないとはいへません。先年死んだ精神病學者、神博士は、兄弟三人、共色盲です。今高等師範の教育病理の講師をして居る、榊保三郎君は、故博士の弟ですが、赤色がわかりませんが、赤いばらの花も、灰色も同じだといひます。これでは、吉野へいつても、満山皆紅なりといふわけにはいかなく、花盛りには、満山灰をかけたるが如しとでも、いはなくてはなりません。殺風景な事です。

また私しの知てゐる人は、あるとき、近江の琵琶湖を船で渡るときに、この水は赤いじやないかといつたので、この人の青い色のわからない事が、わかつたさうです。これは、青と赤との區別がつかないのです。或人が上着の赤裏の綻びを繕はせにやつたら、黒い布を縫ひつけて来たので、小言をいつてやつたら、その職人は、決して布の色はちがつてはいないといつて、強情張つたさうです。それからだんく調べたら、この職人

は赤がわからなかつたそうです。海水浴場で今日は暴風雨といふ信號に、赤い旗をたてたとして、それが青く見えて、今日は快晴の積りで泳ぎでもしたら、どうです、げんのんではありませんか。静岡では漆器は中々大した産物ですが、その職人のうちにこの色盲があつたら、妙な事ができるでしょう。外國からなり何處からなり、赤い塗を注文して来たのに、青い塗の物をやつたら、先づ破談になります。それでしよう、それです。色盲の事に關係の人を養成するには、十分にこの検査をしておかなくてはなりません。それをやるには、眼科専門の者に鑑定させなくてははいけません。それで、この病はなをらないときまつてゐるから、たゞこの爲めに出来る害を妨ぐ注意をしておくのが大切です。

第十五 眼病と迷信

去年の春でした。が三十恰好の男が三つ許の男の子を脊にくゝしつけ

同じ年配の女の手をひいて、たそがれの時分にやつて来る事がありました。草鞋をぬいで上るが早い、か、どうか、せひ直して、いたゞきたいといふのです。そんな病人でもなをしてくれといはないのはないので、すがこの病人はまだ見せもしないのに、たゞなほせといふのです。そこで、とにかく拜見した上でなければ、わからないが、一体どうしたので、といふと、夫婦の者は、はや涙聲で、一昨年の秋頭に眼がわるくなりました。たゞ、どこぞの名醫に診て、いたゞきたいと思つたが、親達が大の御嶽さんの信者で、病氣になるのは心に穢れがあるせいだから、なにも醫者なぞにかゝるに及ばない、たい信神して、心掛をよくすれば、はいどの事で、醫者にかゝるを許して呉れませんでした。その内、追々ど、くらくなり、ますます無理に頼んでやつとの思で、ある御醫者の所へ来て入院した所前には、よかつた片々の眼がまたかすみ出しました。所である時、見舞に來た親達、が之を見て、それこそ信神か足らないで、そんな事になるのだと

無理やりにつれて歸られました。なんでも信神といふので、御水や御供を頂いてゐるうちに、とうとう今年こゝしの夏頃なつごころから、兩眼りょうがん共丸ともまるで見えなくなりました。この間隣あひだりの御爺おぢいさんが、なんでも一月ひとつきか貳月ふたつきはかゝるだらふといつて出て来て、貴方あなたの處ところへ御厄ごやく介かいになつたら、五日いつつかか六日むいかでさつぱりしたといふて歸て来て、親切せつしんに私共わたくしどもに御前ごまへさんもいつて見ては、どうですかといふてくれました。そこで親達おやたちに今一度いまいちど、醫者いしやにかゝらしてもらひたい。辭間ことわに、これの先生せんせいが、始めてゐるそうだといひました。が、どうしても聽て呉れません。今更いまさら醫者いしやにかゝる様な不量見ふりやうけんなら、やるものもやらないといふのです。私は聲こゑで、田たを幾枚いくまいかもらつて分家ぶんけする事になつてゐるのです。醫者いしやにかゝるなら、それをやらないといふのです。私達わたくしたちも種々いろいろ相談さうだんして見ましたが、喰ふ丈たけの物があつても、旨うまいでくらすよりは、いくら貧乏ひんぱんしても、眼めが見えてかせぐ方がよいと思ひ、隣となりの人の話をきいてからは、矢もたてもたまらぬ様な氣きがして、かんどうされても

かまわぬ積つみで、家をくぎ付つにして夜逃よにげして來ました。若し直つて歸らないと、本當ほんたうにかんどうされますが、直つていつたらまさか、に、そうも小言こごもいふまいと思ふのです。どうか、こういふわけですから、無理にも直して、いたゞきたいのです。そこで、どんな病氣びやうきかしらん、治療ちりやうの道みちのあるものならよいがと思ひながら、診察しんさつしますと、俗ぞくにいへば、毒どくめ、黒目くろめが白しろくなつてしまつて、とてもなほらないまづ、手ておくれになつてゐるのです。氣きの毒どくで、なほらないといひにくひですが、何分なにぶんつゝれたものは、つゝれたにて、いたし様さまもなく、どうかなるでしょうといふた所ところで、だめなのが知れてゐるのです。から思ひきつて、一日いちにちも早く歸つて、親達おやたちの氣きげんのなほる様さまにした方がよいでしょうといつて、色々いろいろ話をして、あきらめさして歸した事ことがありました。迷信めいしんの事は、御話ごわしたい事も、澤山たくさんありますが、御話ごわが下手へたで、餘り長談ながだん義ぎは、お退屈たいくつ様さまですから、またこの次にいたしましょう。

第十六 三十三間堂棟木由来(ごりめ)

白人義太夫の下手の三枚目御き、苦しき段は御容赦被つて、こゝもど御聴に達する三十三間堂棟木の由来、平太郎鳥目の段、始まり、チヨン、チヨン々々。

サア縁よこいと、我子の手を引き、二足三足、深山隠の山寺の入相告る鐘の音がぞへながら、そろくと探ぐる足元見付母、コレ平太郎そなたは何ふぞ、仕やつたか、コレと、様は目が見へぬかいのふ、ヤレ、そりやあ、まわいつから、ハイさればでござります、一月餘ふと鳥目がおこりましたか、女房にも云ふくめ、是迄は御陰し申した、エー聞えぬ平太郎、そういうふ事なら、とくよりわしにも、ア、コレ何にもお構ひなさるゝな、したが、御前にも、此坊めも、今夜から嘸便りが、アイ折も折とそなたの眼病猶更わしも力がない、ア、アレ、エモ雪のふる事わ

いのマア、火を燈しまししようと、行燈に手早く燈し、提灯にうつし持たる緑丸、鏡よ笠よと打着せて、それならちよつと參つてさんじましよ、ア、怪我せぬ様に縁よ手を引けよ、アイ、あいろも見へぬ、鶏目の父杖は我子を力草柳が本にたどりゆく……昔の酉の刻、今いへは六時火とぼし頃になると、目が見えなくなるので、鳥は豈は見えるも、夕方から見えなくなるので、鳥の様だ、鳥目だといひますが、何も鳥をころした報でも、何んでもなく、光線が不充分な所では見えないので、夜だとして、光線さへ十分ならば、見えるのです、平太郎の住家が、あいに貧乏暮しで、いけませぬが、電氣燈の壹ツ二ツもつければ、コツバ泥棒の一人や二人、取つておさへる事ができたのです、鳥目といふても、色々ありまして、そこひ網膜炎、脈絡膜炎の様(な)の始りにも、あるし、榮養不良の者、特に小兒には、大變に多い者です、これはよくなる病で、昔は疳眼といふて、今では乾燥症といひますが、白眼に魚の鱗の様(な)に

ギラ／＼光つた者ができ、黒眼もはしやいでせぬよりする様になりま
す。よく直る病であります。放ておくと大抵は黒眼に潰瘍を生じ、角膜
軟化症といつて、くるめがとける様になつてつぶれる者です。小さな小
供ですと俗にひかんどいつて、鳥目と一處に身体がやせて骨と皮と許
になり、下腹が大鼓の様に膨く来て、何の事はない地獄の餓鬼の様
になるので、手後になつたのでは眼は助けますが命がけんのんです。
いふ事があります。大人でも平太郎の様に、鳥目になる事もあります。こ
れは少い方で、また色素性網膜炎といつて、生來鳥目の者もありません。こ
れはなほりません。これはつまり見る力がよわいので、全じあるく足で
も弱いのがある様なもので、病氣といふのではないのです。小供衆で夕
方そこらでつまずいたりぶつつかつたりする様でしたら、鳥目ではない
かと親達の方できをつけねばなりません。

第十七 まじなひ祈禱と病氣

禁歴祈禱等の儀は神道諸宗共人民の請求に應じ従來の傳法執行候
は元より不苦筋に候が間には之が爲醫療を妨げ湯藥を止め候向も
有之哉に相聞以の外の事に候抑教導職たるもの右等貴重の人命に
關し衆庶の方向をも誤らせ候様の所業有之候ては朝旨に乖戻し政
治の障碍と相成甚不都合の次第に候條向後心得違の者無之様屹度
取締可致此旨相違候事

(41) —[氣病と請祈ひなじま]—
これは明治七年の六月に、教部省達書第二十二號として出た達です。禁
歴や祈禱が醫藥を妨げるとが少くないので、それを禁じたのです。明治
十五年の七月に、内務省達で禁歴祈禱を請ふものあるときは、醫師の施
療中の者に限り、其望に應ずるを許すといふ達もで、ゝゝます。御嶽さん
にしる、コン／＼さんにしる。天理教でも、丸山講でも、鯛の頭も、信心がら

第十九 じしよりの眼

「どしよりの眼」といふのは、老人に來る一の變化で、病氣といふのはちがひます。早くいへば、腰がかいむといふと同じ様な事です。人間の眼で視て、判然わかる所の内で、一番近い所を近點と云つて、一番遠い所を遠點と申します。この近點と遠點との距離が多いだけ、調節力が餘計にあるといふので、近視ではこの遠點が近よつて來るために、遠い所がボンヤリする様になつて、近い所は變りがない。どしよりの眼ではこれと反對で、近點が遠くなる。即ち近い所がハッキリしなくなるのです。これは眼球内の水晶体といふものが、年のせいで硬くなり、形も變つて來ます。その爲めに近くを見るとの出來る調節力といふものが鈍くなりまして、初のうちには、裁縫をするのに、針尖が見にくくなる。とか、筆記物をするに筆のさきが見にくくなる。それから少し進むと、手さきでする仕事か、ハ

ッキリしなくなり、ドーモ手近でやるのに、不自由を感じる様になる。俗に年のせいで眼かかすむのですけれど、年のせいだなどといふ事に氣がつかぬ人もあるし、又迄なたでも御自分で年寄になつたと思ふのはよく、の年になつてからの事で、四十五六や五十位ではまだ、若い積でおるものです。それですから年のせいで來る事も、そうとは思はなくて、何か病氣ではないかと思つて、眼科醫の所へゆくものです。所でその先生が眞面目の人だと可ですけれど、随分病氣の積にされて入院をなさせられる事があります。私の親戚の者も、先年或る先生に入院をしるといはれた事がありました。尤も、その先生は、その人が私の親類だといふ事は知らなかつたのです。これは中々罪な話だるふと思ふので

す。理學的にいひますと、老眼といふものは病でなくて、眼と眼が物を見る距離との關係の變化といふとが出來ます。木板職工、活字拾ひは指物師

左官などよりは早く老眼になり易いものです。これは鐫刻器具活字などは鉋や鏡よりは眼を使ふに骨が折れるので、いは早く精が盡きると、いつたようなわけで老眼になれば、もと病でないのだから眼鏡さへかければ一人前に使へるのですけれども、それを知らないで、もう眼を使ふ仕事は出来ないなど、こぼして居る人もありますし、又わるい隣者におどかさされて薬を飲まされる事があるのです、それならドンナ眼鏡をかければよいかといふに、凸鏡レンズといつて中高になつてゐる通例の虫眼鏡の玉の様なのです。大抵は四十五六位から始るので

- 年齢
- 四十五、
 - 五十、
 - 六十、
 - 七十、
 - 八十度、
 - 四十度、
 - 二十度、
 - 十二度、

眼鏡の度、

九十、 八十、

位が先づ通例の處です。しかし人によつて少し宛は違ひますから、たしかな處は、眼科醫の診察をうけねはなりません。それで五年に一べん位は、玉をかへなくてはいけません。それは老眼の度がますますからで、御爺さんが眼鏡を鼻の先端にかけるのは、眼鏡の度がよくなつた證據です。老視眼鏡は眼球より遠におく程度の高ひのと同じ事になるもので

- 十度、
- 八度、

第二十 眼鏡をかけるに眼がよわく

なるこいふ事

眼鏡をかけると眼の弱くなると云ふのは日本許でなく西洋でも同じ事ですけれども、そんな事はないので、眼鏡の度があつてさへいれば、かけ

た方がよいのです。尤も老人然として体裁かわるいなせ、いふ老人のくせに見え坊の方は、仕方がありません。またそんな我慢をしてゐた處で、老人的の變化齒はぬけ、腰はかゝみ髪は白く、皺がより、眼がかすむ、一寸も遠慮なしにやつて來ます。で、容姿振た處で、僅の間です。それで眼鏡をかけなければ、無理に使ふことになつて、非常に不便で、苦しい許でなく頭痛、不眠、食欲減少、神經衰弱などを起すことがあります。英國の有名なドンデルス氏は、必要なくして、眼球及精神を同時に疲勞せしめ、眼鏡使用に由つて、明かに視る事を得るものを、好んで努力して、苦痛を忍び、自ら罪するが如きは、愚の至りに非ずや、といふてをります。決して、眼鏡をかけたとして、眼鏡が適當の者なれば、害はないものです。自ら勝手に眼鏡商へいつて、買つたのでは、強すぎたり弱すぎたりして、いけません。ぬもし度が、デタラメのでは、大變な害を來すともあります。

第二十一

眼病

伊勢屋のおやかたが眼病とかで、ムると聞いて、臺處までゆき、承はれば、且那樣が御眼病ぢやげに、ムります。が如何でござりますといへば、奥より且、那が紅のきれにて、目を押へて出られ。オ、助七か、よう來やつた。へい御眼病の御見舞に、めいりやした。ヤア、且、那あなた御目は、どうなされやした。(滑稽類纂)

第二十二

小便と乳

小便と乳とは、俗間で、眼病の時に、藥のやうに使うもので、これは支那でも、日本でも、西洋でも、全し事です。二三日赤みがさして、めやにも出ます。で、乳をさしました。がさつぱりしません。よく患者が云ひますが、また毎朝小便したときに、指の先へ一滴つけて、眼にさすと、眼の養生になる。

なぞ、いひますが、これは甚だ危険の事にして何れ風眼のときに御話
 しいたしますが、眼が少しわるいと云つて、痲病のあるのもかまわず小
 便をつけた、めに風眼膿漏眼になつて、眼をつぶした人はよくありま
 す。乳も悪ひ病のある人の乳などでは矢張り呑です。西洋では、胎盤の
 切片を眼に載せる習慣があるそう、その爲めに風眼になる人が中々
 あるそうです。小便や乳を間に合せにさして、反て悪くするなぞ、いふ
 のは餘りかしこひ話してはおりません、ドウカ、そんな事はなさらな
 い様に願ひます。

第二十三 あをそこひ(緑内障)グラウ

コーム(いしそこひ)

青そこひ、といふは瞳孔が青くなるから、石の様に眼の球が硬くなる
 ので、「いしそこひ」ともいひます。緑内障又は「グラウコーム」といふ病にて、

之には色々の種類があつて、極く急にくると、一日の内に眼がつぶれて
 しまいます。其ときは大變に痛むで、頭は破れる様で、嘔吐はするし、今に
 も死にそうに苦しむので、よく内科の醫者が腦病とまちがえる事があ
 ります。それは腦膜炎の容体に似てゐるので、眼の方には氣がつかない
 せいで、晝夜痛みだうしに痛み、食物もくわなひで、日々に衰えゆきま
 す。餘り長いので、なにか外の病ではないかといふ様になつて、始めて眼
 の方に氣がつくと、が多いのです。昨年でしたか、或る處で遠田醫學士に
 往診を乞はれて、遠田君かいつて見たら、この緑内障だつたので、すぐ私
 の處へ紹介してきて、私に往診して、ぢきに入院さして療治した事が
 ありました。おそくなつて、いはゞ手後れになつても、痛文はとれますが、
 視力は恢復しませぬ。病氣の起り始めなれば、随分見える様になります。
 男よりは女に多くて、神經質な何か心配のあるといふ様な人に多ひの
 で、今私の處に三人入院しておりますが、皆な女です。それで痛がさは

に來ないのもあり丸で痛がなくて極く慢性にいつとなく始るとも
 あります、その時はだん／＼に見る場所がせまくなつて、しまいには、井戸
 の底から天を見る様にせまい所しか見えなくて、見様と思ふ所丈けが
 僅かに見えて、その周りは見えなくなるものです。この病は急性でも慢
 性でも服薬では中々なほりませんで、ある手術をするので、この病氣
 は昔は丸でなほらないものとあきらめて、この病にかゝるのは神佛の
 咎めだなどいふてゐたものです。眼科で有名なグレーフエといふ人
 が始めて虹彩切除術といふ手術をすれば、この病がなるといふとを
 發見しました。この人の御蔭で昔はつぶれた眼も助るし、また視えぬ迄
 も非常の疼痛をなくする事ができるので、三十日も、四十日も痛み通
 ちに痛むで釣臺で入院する様なのもも療治をするときから痛
 がなくなるのです。この眼を一名いしそこひなといひまして、指で眼
 にさはると丸で石の様に硬いのですが、それは眼球内の水がはけ道が

なくなるか、または水がでまするために、眼球内の壓力が増すせいで
 痛を感じるのです。この病のうちに續發性といつて、ほかの病の爲めに
 起つて來ることもあります。また、ほかの病の手術後に来るともあり、す
 何の病氣でも、早い程よいですが、そのうちでもこの水をそこひは一時
 も早い程よいので、おそいと手後れになつて療治をしても、視えない許
 でなく療治迄に永く苦しまなくてはなりません。飯も食えず、食ふた物
 はあける、やせる、おどろえる、一ト目見た許で大病人ですから、これでは
 療治をうけることは出來まい、少し肥立つてからしてもらうなといふ
 のはほんに素人考で、よくありません。療治さへすれば、その時から痛は
 どれて、少ししたつと飯もくへるし、肥えても來る力もつく、元氣がでる、そ
 れで手早く病になりたてに療治をうければ、視える様になるものです。

第二十四 つき眼

田の草取にゆきて、草の尖にて眼をつゝき、稻の穂にて眼を刺したり、山に柴刈にゆきて、枯枝にて眼をはらつた時に、黒眼に外傷をうけることが、澤山あります。こんなものを皆つき眼といつて、非常に危険の者でして、農夫が眼をつぶすのは、多くはこのつき眼の爲めです。下駄をふみ外して、小石で踵をついたので、破傷風になつた人が、私の友人にありましたが、小さな傷は、中々馬鹿にならないものです。稻の穂なり、枯枝なりで眼をついたとき、その穂や枝の尖に、化膿性菌うみをおこすばいきんがあると、傷の處に膿を持ちます。俗に風がはいつたといひますが、ついた丈なら、大したことはありません。が、此風がはいると、餘程上手に早くしない、と先づ眼はつぶれるのです。一寸したはやりめや、のぼせ眼などなら、賣薬でもなをります。が、このつき眼は、専門醫の方でも、むつかしい事にしてゐるので、一日か半日の事で、助かる眼もつぶれる様になります。昔では、つき眼はつぶれるものとしていた位ですが、今日では、眼科が進歩し

ましたで、早くさへわれは、つぶれる事なしにも、すみません。で、決して人がいひどいつたからとて、わけのわからぬ薬など、使つてはいけません。河本博士の眼科にも、化膿性角膜炎は、眼病中尤も緊要にして、失明の大半は、之れに原因し、而して適當の法を以て、防遏し得べき者なれば、最も注意を要すと書いてあります。通りつき眼は、大抵角膜炎が化膿して、眼球がクシャクシャになつてしまします。玉の様にきれいなのを、たにしをふみつぶした様な、きたないものにしてしまします。

第二十五 専門家

五六日前に、隣郡の或る醫者の方が、御訪ひになつて、色々の話のときに、専門家でもわからない事があるものですね、といふのです。それはわからない事、もまぢがう事、もない事はないでしょうが、どういふことで、あるのですかと、さゝますと、その人のいふに、この間、私の近所の人で、鍛冶

職の者で眼へ鐵が飛んだのである眼科専門の方へいつた處が三十日もたつたがなをらないといふので歸て來ましたのが私の處へ來たで見ると角膜に鐵がはまつてゐるので針でそれをとつてやつたらすぐなをつてしまつたのですそれで弘法にも筆の誤り上手の手から水がもれるといふ事もあるものだと思つたといふのですそれはまちがいやしくじりははないとはいへませぬが専門家で鐵がはまつたのがわからない事なとはまづなかると思ふのです昔の落語に面白のがあります或村の眼醫者の所へ去る人が毎日く、幾日も通つてゐた或日朝ゆくと先生何か御用で外出されたといふので今日は私が療治して上げますと奥様が出てふだん見様見似でさし薬位はできるので一寸拜見と診察すると今でいへば診察室ですなそれへ通して眼臉をかへしで見ると睫毛が何本もはいつているので毛抜でそれをだして何か薬をさして歸したずるとしばらくして先生が御歸りになつたので奥様

は早速手柄顔に今日だれくさんか御いでかくくと睫毛をとつてやつた話をするると先生がいふに御前等はそれだからいけない睫毛をとる位の事はおれも知つてゐるかあれがはいつてゐる許に毎日やつて來るといつたといふ話がありますこれはホンの昔話で今ではそんな馬鹿げた事をする人はありませんでしやう。

第二十六 やぶにらみ(斜視)

「やぶにらみ」といふのは眼の球がソツポウを向いてゐるので男ではまあさはとでないが女ですと一寸見苦しひものです若ひ女の方で年頃にもなるると氣にかけるとなほ變に見えるものです昔は丸でなほらないものと極つておりましたが今日ではどれでもといふ譯には申されませぬが大抵は療治のできるものです西洋でもこの療治は餘り古いものではなくて前々世紀即ち十八世紀の半頃に英人にタヒロルと

いふ人があつて斜視が治るといひふらしたので門前市をなして大變な騒でした所が虚の話だつたものだから矢張なをらないといふ事になつてゐました。その後百年程たつて千八百三十八年にストロワイエ川といふ人が屍體で研究して眼筋を截る——眼球の動くのは六の筋が球の上下左右に附てゐて、その働さで自由自在に動くのです、その筋のうちで一方の短い方が長くなると方々の方へひかれて斜視になるのです。——と治すことができるといふとを證明したので、その翌年、千八百三十九年、日本の天保十年十月六日に伯林のヂツヘエンバツハといふ先生が始めて生きた人間に手術をして見た、大變もな評判で野原の真中で狼煙をあげた様でした。が内側の方へ向ひてゐたのが治つたと思つたら、反對に外の方へ向ひて矢張りやぶにらみになつたので、折角の狼煙の煙も風に吹き飛ばされた様に、さえてしまひました。然しだんく研究してゆく人がふへて一千八百五十三年、日本

の嘉永六年に有名なグレイフエといふ先生が完全の方法をやる様になりました。これからは改良に改良して、今日では十分な方法がわかつて來ています。福澤諭吉先生が文久元年の末に竹内下野守、松平石見守など、幕府から歐羅巴へ使節にゆくときに、福地源一郎や箕作秋坪など、一處に隨行していつて、歐洲各國を巡覽した時、獨乙の伯林で、この斜視の手術を見たそうです。

其前、獨乙の伯林の眼病院でも斜視の手術として子供の眼に刀を刺す處を半分ばかり見て、私は急いで其場を逃出し云々(福翁自傳二一六葉)。

文久元年といふとグレイフエ先生が始めて手術をしてから六年目です。たしか福翁百話の方にはこの事が詳しく書いてあつた様ですが、今、文庫の内に見へません。で、わかりませんが、とにかく、日本人で斜視の手術を見たのは、福澤先生が始めでしよう。日本では、去年死んだ宮下學士

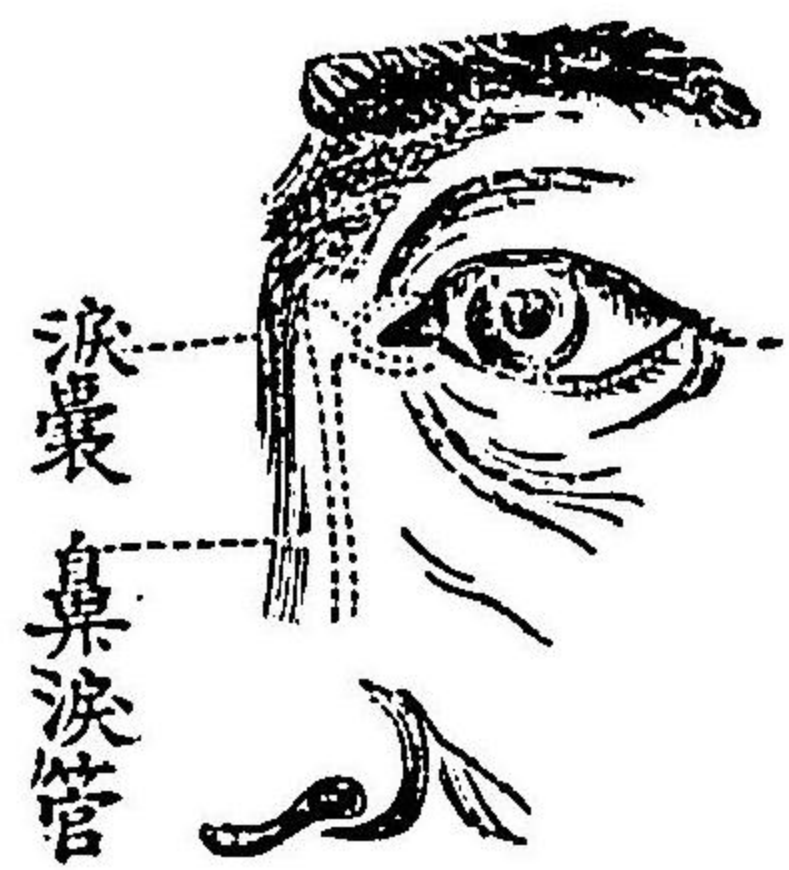
が洋行歸て、日本で斜視手術が出来るのは、拙者許といふ様な事をいつてゐたのが明治廿二三年の事でした。が今日では斜視の手術位をやる人は澤山あります。尤も、ドンナのでも手術が出来るといふのではなくて、手術してもだめなのがあります。また治るにしても中々むつかしひともあります。其代に意外によるればるゝとがあります。私が一度十六七の娘に療治したら治つたといふので、聲はないでしょうかと頼れてこれには閉口した事があります。

第廿七 うみそこひ(白内障)「カタラクト」

四十五六になると、近い所が見にくくなるが、それは老視といふのですが、それとはちがつて、やはりその位の年頃から次第に眼がかすんで来てそれにつれて、瞳孔の内が白くなるのがあります。だん／＼見へなくなつて、しまいには、明ひか暗ひか、いわかる丈になり、痛もなければ、めや

にも出ない、瞳孔の内が白いといふので、白そこひといひ、膿かたまつた様だといふので、「うみそこひ」といひます。私共障者の方では、白内障、洋名を「カタラクト」といひます。カタラクトと云ふのは、瀑布といふ意味で、眼汁が瀑の様に落ちて来たものだと考えたから、瀑といふ名をつけたのです。この病氣は種々ありまして、支那の古本でも、二十種位は、かいてあります。今日でいふと、もつと澤山の區別ができて、位澤山の類があります。普通「うみそこひ」といふのは、老人性白内障といふので、主に老人に來て、年をとつて老視になる様に、いはゞ年のせいであるのです。それは、一旦かすみ初めますと、大抵は薬を飲んでも止まらないもので、一度は丸でみえなくなり、然し丸で見へなくなつたときに療治をすれば、また見える様になります。それはどうするかといふと、もど／＼この病は、眼球内の水晶体といふものが濁るので、その濁つた水晶体を療治でとりだすのです。いはゞ、梅の種子をぬく様なもので、この療

病で、この管の入口が腫でもすると涙のはけ道がなくなるので涙が通らなくなることもありまます。またトラホームや何かの眼の病でくる事もあり、またこゝ丈の病で、この眼から鼻への抜け道がせまくなるか、ふさがると涙のはけ道がなくなるので涙がこぼれる様になるのです。見た



所は何ともなくて風にもあたると涙がで、流れてこまるなどいふ人があります。そういふのは涙管消息子といふて棒でこの抜道を太くしてやるのです。かなしくてポロポロ涙が頬を傳るといふのは涙点や涙管がせまいのではない、はけ道がわるいのでなくて出

の様なもので、尤もこの町は少し涙管狭窄症ですか。——下水かよく風

第廿九 眼の上水(涙腺)

御話か少々しめりばくなりましたが、序でに今一つ涙話をいたしましよ。う町ですと下水があれば上水があります。日本でも、東京横濱長崎などには上水があります。それで上水の水は、飲用に供するのと種々な掃除に用ゆるとの、二の使ひ道があつて、西洋で所によると、上水に二つあつて一は飲料水、一は雑用といふ様になつてゐるさうですが、東京などで一は、一の上水で、飲用と雑用と兼ねてゐるのです。所が吾々の眼は、中々費

澤で尤も飲料はいらないからですか。雑用即ち眼の掃除用清潔用丈に上水が備へてあります。その水源は涙腺といひまして、眼球の側にあ

治の方法は今日では大變進んで来たのですがとにかく印度では二三千年前にもうその術かわかつていたので印度から支那支那から日本にも古くから傳つてゐました馬は大變にこのうみそこひになるものでも古くから馬喰はこの病を治す方を知つてをつたへたものです。その法は中々嶮呑の法でした。今日では大層安全の方法がわかつておるので、先づ今日では安心して療治をうけていゝのです。白内障でも他の病の爲めに來るともありません。大井川の近傍にゐる「秋やみ」とかいふ熱病をやるよ、よくこの白内障になるものです。その外にも色々の病のあとで、この病になるし、また時たまは生來に白内障になつておるのがあります。これですと生れたてから盲目ですが、十五六にでもなつて療治をうけると見える様になる。その時は餘程妙だそうにして澤市の文句にもある様に、聲をきけば自分の女房といふとはわかつても見たのではあなたとはとなたですといふ様なわけ、心理學者などは、こふ云ふ様

どきには、研究の材料をうる事ができるので、日本でも、これまで幾度かありまして、普通の新聞などでも評判したとがあります。そこひと云ふと、昔もうだめだと思ふ方もある様ですが、今日では「そこひ」でも治る方が多くて、そのなかでもこの白内障などは、樂しみのある方で、私共眼醫者の方からいへば、おもしろい病です。

第廿八 眼から鼻へぬける

眼から鼻へぬけると云ふたら、奈良の大佛さんじやあるまいしと思ふ方もあるでしょうが、となたでも眼から鼻へはぬけているので、眼頭を御覺になると少し高くなつて、穴のわいてゐる所があります。それは涙点といつて、眼の内へ溜つた涙が、この穴から吸ひとられて、眼頭の裏の處にある涙管といつて、涙の溜池みた様な所があつて、そこへ溜つた涙は、管で鼻のなかへ流れてゆく様になつてゐます。それですから鼻の



涙袋 鼻涙管

病で、この管の入口が腫でもすると涙のはけ道がなくなるので涙が通
 らなくなることもあります。またトラホームや何かの眼の病でくる事も
 あり、またこゝ丈の病で、この眼から鼻への抜け道がせまくなるか、ふさ
 がるど涙のはけ道がなくなるので涙がこぼれる様になるのです。見た
 所は何ともなくて風にもあたるど涙がで
 流れてこまるなといふ人があります。そう
 いふのは涙管消息子といふて棒でこの抜道
 を太くしてやるのです。かなしくてポロ／＼
 涙が頬を傳るといふのは涙点や涙管がせま
 いのではないはけ道がわるいのでなくて出
 水が多すぎるのです。何のとはない静岡の町
 の様なもので、尤もこの町は少し涙管狭窄症ですか。――下水かよく屈
 いていないのですか。――大雨でもふると、その管でははけきれなくて

溢れ出るので、町なら下水工事は完全にしたいものです。人間なら涙
 管は通りをよくしておきたいもので、それでないど、わいつは眼から
 鼻へぬけていないど、奈良の大佛さんに笑はれます。

第廿九 眼の上水(涙腺)

御話か少々しめりばくなりましたが、序でに今一つ涙話をいたしましよ
 う。町ですと下水がわれば上水があります。日本でも、東京横濱長崎など
 には上水があります。それで上水の水は飲用に供するのど種々な掃除
 に用ゆるのど、二の使ひ道があつて、西洋で所によると上水に二つあつ
 て一は飲料水、一は雑用といふ様になつてゐるさうですが、東京などで
 は、一の上水で飲用と雑用と兼ねてゐるのです。所が吾々の眼は、中々費
 澤で尤も飲料はいらなからで、雑用即ち眼の掃除用清潔用文に
 上水が備へてあります。その水源地は涙腺といひまして、眼球の側にあ



うちに、つかへなくなり、この涙で眼をあらつた、そのよでれ水は前

ります、こゝで涙を製造する、湧き出る様になつてゐて、入用の時に、いつ

でも涙をだしてくれ、ほこりが眼にはいつてこまるの、煙たくてい
けないのといふと、すぐ涙が出て来て、眼
球を洗つてくれます、またこの涙は洗ひ
掃除する許でなくて、器械油の代用もし
ます、眼球か眼瞼の後で、グルグルまわる
と、ハシヤイデいては、眼球がすれて傷が
つきます、くれと涙がある許で、ちようど
器械に油をさした様で、ごく滑に動すこ
とができるのです、皆さん涙を見て不吉
だなといつたら、涙がおこります、せ、涙が
なかつたら、吾々の眼球は一日たゝない

にいふた下水の道、即ち涙管で鼻の方へ送るので、なんと味い工合
ではありませんか、それを思ふと、静岡市などは、下水は不完全だし、上水
は丸でない、しいやはやめ、んぼくない次第です。

第三十 風眼

上杉謙信の兵をやるや、神速風の如し、と風眼といふものは、風の通りす
ぎる様にはやく、病の進むといふ意味で、風眼といへば、先づ潰れるもの
と思つておつたので、私は旅行が唯一の道樂として、書生の時分には
よく方々旅行しました、その時分に、夕方宿屋へつくとも、ひのは下手
でも話の上手な按摩があるなら、呼んでくれと宿の者に頼んで、按摩に
その土地の話の話をきくのが大好でした、それです、何處へゆきまして
も按摩に、おりました、その話の始めに、ドウして眼をつぶしたか、とき
くのが、御極り文句でした、それで何時も、中年に按摩になつたものなら

風眼でつぶしましたといふのが大抵極り文句といふてよい位です。小田原へ泊つたときに鬼面山關が東の關取になつてゐた頃に私も東の方でしたなごいつた大きな男の按摩がありました。それも風眼でつぶしたといふ事でした。働かしたらドンナ事でも出来そうな大男に按摩をさせるのも風眼のせいです。風眼といふのは膿漏性結膜炎と私共の方ではいひましまして、痲病の膿が眼にはいると、この病になるので、一名を痲毒性結膜炎ともいひます。始めは白目が赤くなり、眼瞼か腫れ、めやにが出て来まして、一寸はやりめと全じ様です。それでいひるときには、一晩で眼がつぶれる事があります。眼球結膜が腫れて眼瞼があかくなつて、めやには流れ出る。そのうちに角膜に雲がかゝり潰瘍が出来、疼痛は烈しくなつて、ねてもねられず苦しんでゐるうちに、角膜の潰瘍が破れると、モウそれまでにして十中九分九厘は失明するのです。ドウしてこの病にかゝるかといふと痲病のある人では自分の痲病の膿が指にで

もついているのを知らずに目をこすりたりなどして、目につけるとがあるのです。それです。からドウも右の眼の方か始にかゝり易いのです。自分には痲病はなくても痲病の膿のついてる布手拭器具などにさはつた手で眼をこすつてもうつります。私の友人で今洋行している者が、武才許の頃に東京の外神田天神下に住んでゐて、毎日子守がつれて天神へ遊にいつたその時分は天神に揚弓店が澤山あつたそう。その揚弓店などで遊んでゐた事がよくあつた所。ある夏の事で、大變汗が出たといふので、子守の女が揚弓店の店に放てあつた手拭で顔をふいて呉れたそうです。その晩方になると眼が赤くなつて、やにが出る。翌日の朝はモウ中々の膿が出る様になつたので、眼科醫の處へつれてゆかれた所が、ドウモ風眼らしいといふ話で、家には誰も痲病何かにかゝつてゐる者はないのに、ドウしたものだらふといふので、だんく調べた所が、前の矢場の手拭で顔をふいたといふ事がわかつて、その手拭のせい

だといふので、それから子守はしかられる決して天神などへは遊びに
つれていつては、いけなないといふ事になつたそうです。それでも隣者に
かけ方が早かつた爲めに、友人は眼をつぶしはしませんでしたが、考
ると喉呑であつたといつてよく、私に話しました。その友人は、今に歸つ
てくると、京都大學の教授になるのですが、若し風眼になつた時、眼をつ
ぶしたら、ドウでしょう。留學生所ではない、今時分は何をしてゐるかわ
かりはしません。また、瀛車のなかの便所の戸のつまみにさわつた手
眼をこすつて、風眼になつた華族もあつたといふ話もありまして、中々
こわい病です。

第三十一 讀書燈

富士谷御杖の北邊隨筆の「讀書燈」といふ所に「古今秘苑に云、讀書須以麻
油、無煙不損眼、但患其易乾、每一斛入桐油三兩、和之、則難乾、又辟鼠耗、以薑

少許置蓋中、亦可省油、以生姜擦蓋邊、可不生滓、量おほかた讀書せん人の
眼を損せんは、志をむなしくすべき基なるべければ、はやく眼鏡をも用
ふべく、かつこの燈法をもまねぶべくこそ、とあり、古の學者の要領の程
がわかるではありませんか、ほんどうに眼を損したらば、わたら志を空
しくしなければなりません。それでこの燈法の事は、よいかわるいかは
今日ではいふ必要がありません。今では石油といふ、やすくて明るい油
もあり、都會の地なれば、瓦斯や電氣燈もありまして、麻油などは、用ゆる
事は、いりません。しかし、今口ある色々の燈のうちで、何か一番よいかど
いへば、石油よりは、瓦斯、瓦斯よりは、電氣燈です。それでは電氣燈は、どん
なの、がよいかといへば、光力が室の大により、仕事によりて、夫々度があ
る許でなく、光はいつも平等でなくてはいけません。電流が不均で多
くなつたり、少くなつたりする、即ち明るくなつたり、暗くなつたりする
のは、尤もいけません。ぬふひと消へて、亦つくつくかと思へば、また消へる

等云ふのは、尤もよくないのです。光か風にあほられる蠟燭の火の様に
 プルくするのは、一番眼をつからせるものです。電気燈は未だ使てゐ
 る人が少ないので、まづおいて石油ランプの事を御話しておきましよ
 う。全ヒランプでも大變にこの頃は進歩して來て明るくなりました。空
 氣ランプといふのは、空氣のはいる量が増すやうにできたので、口金の
 網の目の様な處の下が前はふさがつてゐたのが、空處が出來て空氣が
 餘計にはいる様になつたのです。空氣が餘計にはいれば、酸素の供給が
 ます、即ち酸化作用か盛になる。ひらたくいへば、燃え方が多くなるので
 明さが増すのです。サイクリスト用の二十世紀式ランプなどは、中々明
 るくて、アセチリン瓦斯ランプよりもあかるい位です。それで本でも讀
 むときに「ランプ」はどうしたらよいかといふに、自分の頭の左側におく
 のがよいので、そうすると、手暗りにならず、光線が十分につかへるの
 すから、ランプの炎からの光線は眼に直射しない方がよいので、また本

なり机なりにあたつて、反射されたものでも、眼に直射しないのがよい
 のです。さうするには、「ランプ」の傘の自分の方へひいた處へ紙を張つて
 おくのです。さもなければ傘の鐘形で、なる丈深いのがよいのです。口金
 の處は、よく掃除しないと、光線も不十分になり、ちらちらしていきませ
 ん。これから夏向になり、ますます、どうしてもわけひろげた所へ燈をおき
 ますが、風にかまわれて、チラ／＼するのは、矢張りいけません。で、書燈形に
 したのか、さもなくても、風にかまわれない、仕掛のあるのを御使ひなさ
 る方が、よろしうございます。

第三十二 教場と眼

先年私が高等中學にゐる時分に、微分や積分を習ひたいので、神田の物
 理學校へ夜學にいつたことがあります。私立學校の事で、極く教場など
 は、不完全で、一方に窓があつて、一方に入口があり、天井が低く、まつく

らの室でした。夕方六時頃から九時まで三時間宛稽古したので、ランプも餘り明るくないのが、二つあつたきりでした。この時分まで私は眼鏡をかけた事がなかつたのですが、この學校へ通つて二三日たつと、ドウモはつきり黒板が見へないので、六十度の近視の眼鏡を買つてかけました所が一週間もたつと、それでも見えなくなつて、四十度のをかけました。それがまた一二週もたつと、三十度のをかけなくては見えないう様になりました。彼は武ヶ月程通學して、他に差支が出来て、こゝへゆかなくなりました。それがそれから一ヶ月もたつと、眼鏡がいらなくなり、この教場は窓が一方にあつたのです。が窓の方を脊にして坐てゐて、ランプをつける迄の時分でも、くらくて机の上は自分の体の影で、手さきがわからないので、夜になつてランプがつく様になつても、ランプがわるいので、くらくてこまりました。近視の眼鏡が入用になつたのは、近視眼になつたのではなくて、調節機痙攣といふ病になつたのです。物理學

校へゆかなくなつてから次第に眼鏡がいらなくなつたので、私立學校の不完全な事、教室の採光方が眼に大關係のあるとがわかりました。私は他の事の爲めに早く退校したからよかつた様なものゝ、若し長くおれば立派な近視になつたので、近視のうちでも學校近視といふのは、多くはこの調節機痙攣といふのが原因になるので、しかもその痙攣になつたときに、近視眼鏡をかけると、よく見えるので、隣者に見てもらはないうで、眼鏡匠で自分で見えそうなやつを買つて來る、また見えなくなる。度の強のを買つて使ふ、次第に本物の近視にするようになるのです。教場が眼に關係するのと、同じ様に學校でない他の工場や何かでも同じ關係があるので、うす暗い處で細かひ仕事をすると、ドウも眼をわくくします。昔から蝨雪の苦など、いふておりますが、錢がなくてなら、仕方ありません。が蝨や雪の明りて、本などよむのは、眼を勞らしていきません。よく勉強家がすると、夕方燈火をつけるのが、面倒だ句切が

わるいといふので、うすくらがりに軒端や椽端に出て本をよみますが、あれは大變によくありません。薄暗なつたら、サツ／＼と戸をしめるならしめて家の内で燈火をつけて讀むなり、書くなり、しななければいけません。

第三十三 偽目

偽目といふのは義眼の事です。曲亭馬琴の立同放言下集第二十六景清の條に、又世に一目を思ひて偽目といふ物をする事あり、この事唐山には胡元の時よりあるにや、輟耕錄卷二十三載す、杭州張存幼患一目、時稱張眼子、忽遇巧匠爲安一磁睛、障蔽於上、人皆不辨其偽、この事亦上總忠光が魚鱗を左の目上に覆ひし事と年を同じふして談るべし。とあり、昔の人も義眼をしたと見えます。

第三十四 隻眼の損

酒席遊戯



ナアーニ貳つあるものでも、一つ位はなくなつてもいいのです。なぞといふ方もありますが、これは大變なまぢがいて、隻眼になつたら色々の損があるので、字をかけば真直にはかけないし、道があるけばデコボコして足元がきまりません。横町から人のかけて來たのも、わからなものです。皆なさんもなすつた事があります。わけしよう、片目の環といふ遊戯があります。わけのないとですから、一寸やつて御覽なさい。紙捻を二本作り、一本を……形の環にして、一本を——形の鈎にして、御二人で向ひあつて坐つて一人が環を持つて居て、一人が掌で片目蔽して、片手にその鈎を持つて、鈎

の曲つた尖を環に箝めるのです。なんでもない様で、中々ひつかしひも
 のです。これは片目では物の深さがわからないからです。幾何學では三
 のジメンションと云ふのがあつて、長巾高といふ様なものです。一のジ
 メンション即ち前後とか、左右とか、上下とか云ふ丈だ、線が出来る丈
 けで、二のジメンション即ち前後と上下、左右と上下、前後と左右といふ
 のだと、平面が出来るので、三になると、上下、前後、左右、又は高巾長又は廣
 高深さで立体が出来るのです。それで宇宙間の物は、この三のジメンシ
 オンを持てるので、それです。それから物体を見てこれは机だ、これは家
 だ、これは人だ、といふとは、三つのジメンションを感ずるとができません。
 れはわかりません。人間に兩眼のあるのは、この爲でして、兩眼があれば
 こそこの三を感ずることができ、この物は何んだといふことがわか
 り、一目見た丈で、大低あの箱は高さが幾尺、巾が幾尺、長が幾尺あると
 いふがわかります。が、若し片目丈だと、二のジメンションがわかる丈で

す。平面はわかるけれど、立体はわからないので、人間を見ても紙にかい
 た人間と全と様にしか見えない。高さと巾と丈わかつて、深さがドレ
 丈あるかはわからないのです。川端へいつても、この位ならこそ様と思
 つても飛ひたらなくて、落ちたりするので、今皆さんが試した遊びで
 も、環があるといふと、丈はわかつてゐても、ドノ位前にあるか、わから
 ないので、うまく鉤が環にはまらないのです。それで實際片目の人は道
 を歩けもしなければ、飯を食ふとかできないではないか、とおつしやる
 でしょうが、それは極く不完全に習慣で、やつてゐるのです。それから怪
 我をする事が多いので、垣根の竹で眼をついたの、桑の枝で眼をついた
 のなどいふのは、片目の人には、大變に多いのです。片目位ドウてもよい
 とした處で、中には片目にくる病はきつと、モウ一方の眼に来るのもあ
 ります。ただ片方丈ですむにしても、中々危険な者ですから、片方だか
 らかまわれないなど、いふてはいけません。もし、そんな亂暴をいふて、後で

後悔しても、おいつきません。マア、モウ一邊紙捻で環をさしてごらん。なさい。兩眼でやると、ドンナに樂でしよう。

第三十五 學校の窓

昨年東京醫學會で、桐淵鏡次君が「眼の衛生に就て」といふ題で、演舌したうちに學校の窓の事でおもしろい話があるで、御取次しませう。學校の窓は、左右又は後にあるのが宜くて前にあるのが尤もよくないので、西洋の或小學學校で、大變一つの級に近視の子供が殖へた、それはどういふ譯かといふと、最初さういふ配置にする積ではなかつたが、教師が自分の顔に日が當つて困るものだから、自分が後を向けた。これに原因したといふとである。こんな不親切な先生は、日本にはないでしようが、知らずによつてゐる人もないともいへません。なんでも學校を建築する前に、よく考へてしなくてはなりません。窓の大きさは室の前に澤山樹木

かあるとか、何とかいふので、多少は斟酌しなくてはなりません。が、ザツトした處で、部屋の大さと窓の大さとの比は、窓が一なれば部屋の大さは四か六でなくてはいけません。四間に五間の教場なれば、一間に五間の窓か、一間に三間半位の窓がなくてははいけません。それで窓の高さは餘りひくいのはいけません。まづ窓の敷居か生徒の机の面と全じ位か、いゝのです。光線が下の方からくるのはよくありません。

第三十六 子供を學校へだす御母

さん方

これまででした御話で御わかりでしょうが、御子さん達を學校へ御だしになる御母さん方は、ドツカ毎朝本だ筆だ紙だど御子さんの荷物といふと大層ですが、御包を御調になる序に御忘れにならない様に、きれいな手拭を持たせて御遣しになる様に願ひます。手拭がないと便處へい

つたりまたは手を洗つたりしたときに、つい他の方のかかりて手を拭きますが、若し手拭を掛けてくれた子が、トラホームか何かで、めやにをふいたのでしたら、可愛そうに御宅のお子さんに、その病かうつりますトラホームでなくても、やはり目といつて、色々傳染性のものであります。ドウモ、嶮呑です。また御宅の御子さんが、眼かわるくて、めやにをふいたとすれば、大變もない氣の毒な思をしなくてはなりません。他のものなら買つて返すといふともできますが、病をうつしたので、ドウにもコウにも仕様がありません。ドウか、呉々も御母さん方が御注意くださつて、そして、人様のは、からないう様に御しえくください。これは少しのどの様で、たい眼の豫防攝生になる計でなくて、こふいふ習慣をつけると、公德心の養成にもなるのです。

第三十七 病者ニ醫者

或人眼を病む、他より之を見れば、少しも病む様ならず、醫者に診さしめ、以て術の巧拙を試みんとす。醫者能く之を見て云く、右の眼なり、或人云く、否、左なり。醫者の云く、我方より見れば、右なり。足下の方にあつては、勿論、左なりと、頓智叢談。

病人の來て色々試験を試むるは、めずらしくないので、たちのわるい人になると、東京などで、診てもらつて聞いた病名を、わざ／＼かくして、さきに先生何といふ病でしょう、ナドとばけて、何々と聞いて、ハア東京でも、さういひました、ナド、やる人があります。中々ウツカリしてゐると、飛んだ目にあうのです。然し、今日では、診斷學といふものがあつて、チャント順序をたて、診ます。素人の試験位は、平氣でございます。

第三十八 冷しいのは白い、敷寄屋

「梅ぼし」といふと、何んだか、かすい様な氣持がする、風月堂といへば、何んだ

かおしい御菓子に前まへにある様な気がするので、マバケ——といはれ
 ると襟えりもどが冷ひやつとする様です。眼まなこで見るとでも全ぜんじで、をなじ御萩みはぎで
 も、よそから立派りっぱな蒔繪まきゑの重箱じゆうばうにでもはいつて來ると、おいしひ様な氣
 がします。一寸いちゆんした所で、頓智とんちを働はたらかすといふと、かありませう。昔むかし某侯たかうぢの家
 臣おんに小川永基こがわえいきと云へる者ものあり、或日あるひ侯うぢが湯殿ゆでんに這入はいりて御側みわきの者もの共ども數寄
 屋すゑの單衣たんいを差上さしあし處ところ是こゝでは熱あつし最もっとと冷ひやしいのを持もてどの仰おほせに皆みなを當
 惑あやまし如何いかにして宜よろからんと思おもひ居ゐる所ところへ、恰あたもよし永基えいきの來きたりければ
 殿とのが御湯みゆを召よされし故ゆゑ數寄屋すゑの單衣たんいを差上さしあけしに、是こゝでは熱あつい最もっとと冷
 しひのと云いはれしが之これより冷ひやしいものはない、何か好工こうこう風ふうはないかと
 言いへば、永基えいきそれは數寄屋すゑの染ぞめが紺くろでありし故ゆゑ、殿とのは熱あついと仰おほせられし
 ならんと、白しろと藍あゐで染ぞめめし者ものを持もて行いなさいと云いはれ、成程なるほどそうかと直ただ
 様さま之これを進すすせしに、其そのをば召よされたり、頓智とんち叢談そうだんこれは頓智とんち許あかしでなく實
 際じさい、白しろい浴衣ゆかたは黒くろい浴衣ゆかたより涼すずしいですが、吾々われらの目めは白しろいものは涼すずし

い様な気がするので、それです。それから正月しょうがつのはトニカク盆ぼんに配はる手拭てぬぐい
 の染ぞめは氣きをつけないと損こです。先まづ白地しろぢを多くして藍あゐか紺くろで少すこしあし
 らつた位くらいの、見た氣持きもちがいゝので、ア、これは何處どこのぞ知らんとか、ア
 、意氣いきだとか、いつて手てに取とる氣きが起たるので、それとアベコベで、寒さむい
 最中さいちゆうに湯殿ゆでんに眞白ましろの手拭てぬぐいをおいて、らんないさい。大抵たいていはほかのを使つかひ
 ます。なんだか冷ひやそうそうで觸ふる氣きにならないです。全ぜんじ白地しろぢの浴衣ゆかたでも夏なつ
 時とき着きてゐるのを見みると、すいし、そうで勇ゆうし、そうですが、寒中かんちゆうに着きてゐる
 と寒さむそうそうでみすばらしく見みへる者ものです。

第三十九 眼の一週は七十五日

私の處ところへ來きる病人びやうにんで、幾日いくにちで治なりましよ、とよきかれるので、マア二週間しゅうかん
 位くらいです。ねといふと、この人ひとがビツクリして、へー、そうすると、ザツと半年はんねん
 です。ねといふのです。ドウして、ときくと眼まなこの一週いっしゅうは七十五日ななじゅうごにちだといふ

じやありませんかといふのです。とういふ時には、私は、何時も私のいふ一週は七日で、新聞や曆と全じですといふのです。眼病は、永い〜といふのは、次にいふ局處魔酔薬がなくて、一寸どした手術にも五十日も六十日もかゝつたせいで、睫毛が一本ころけてもいたいのを、この繪にある様にチク〜針や剪刀でつゝか



れたのですもの。

第四十 眼科と局處魔酔薬

昔は眼の療治は、場處がせまいのと、痛のひをいために療治も思ふ様にはできず、また出来るにしても、中々日數のかゝつたものでした。それが今日の様に、早く思ふ様に出来るのは、全く局處の魔酔薬が發明になつた御蔭です。そ

れに使ふ薬は、コカインといひますが、その薬の發見されたのは、一千八百六十年で、ウェーレルといふ人の弟子のニーマンといふ人でした。それから二十年たつて、アレーブといふ人が動物に使つて見て、麻痺作用のあるとがわかり、また二年たつて、シエローブといふ人は、舌の尖へつけるど、その處がしびれるといひだしました。このつけた所、即ち局處に働くといふとがわかつたので、コルレルといふ人が眼につかつてみました。そうして一千八百八十四年の九月に、ハイデルベルヒの學會で、結膜に點滴すると、眼球の知覺がなくなるといふとを報告しました。このコルレルといふ人の報告から、人が色々使つて見る様になつて、今日では眼科では、大切の薬となりました。この薬の御蔭で、女の方でも、子供衆でも、少つとも痛い思をしないで、療治がうけられる様になりました。私共、眼醫者の方では、薬に、思ふ様に、手術ができるようになりました。この薬がつかわれるとになつたので、眼科の手術は、非常に進歩して來ました。

今から云へば、つまりぬ様でも中々この薬が人間に使はれる迄には、多勢の人が頭をなやましたのです。薬が出来てから、十四年もたつてやつと實際の用にたつ様になつたので、學者がすることは、一寸見ると迂遠で馬鹿くしい様ですが、その馬鹿くしいのが積ると大變な利巧などになるのです。そんなつまらない研究なんて、何になるものか、寝てゐる方がよつばよましたなどといふ人が多ふございますが、その寝てゐるうちに、ほかでは、ドン／＼進みますから、何でも油断せず、勉強しなくてははいけません。私は日本眼科史を作らふと思ふて、五六年前から材料を蒐めて研究してゐますが、昔の人のしたとを調べますと、ホントニ感心するところが多いのです。一の薬を教つた爲めに獄屋につながれた人もあります。その時分のとを考へますと、便利な世に生れきて、なまけてはすまないのです。

第四十一 眼病女と風引男

そばかす女とにきび男

めやみ女と風引男は意氣な者。そばかす女とにきび男とはよい者と昔しからいふておるが、これはけしからぬ話して、眼病女がうつむき勝ちにもみの布で眼をおさへて、はーちやんどウしたの、あたい眼がかすんてこまるわ、ナドとやつてゐるのは何となく婀娜よく見える様なもの、春さきなどに少しのとで、眼がかすんだりするのは、ドウも腺病質の女に多いので、去年第一尋常小學校の父兄懇話會で、病院の三輪淳君が話しておられたが、遠州の御前崎の邊では、嫁をもらうに、身体が目方で、もらうそうです。これは和田義盛(？)が巴を自分の妻にもらひうけた様な者で、強ひ小供が出来る様にといふので、至極賛成です。然し唯だ目方丈てもらうとになると、ヘルシヤの皇室の様に、女はなんでも肥ていれ

ば美女だといふので、脂こひ者を喰はせて、ねかしておく様では、反てい
けませぬ。目方が多ひ肥つてゐるから健康かといふと、決してそうでは
なくて、身体の釣合がよくなくて



ん、少し寒いといふては、風を引き襟巻だ、手袋だ、ズボン下を三枚はいて

はいけませぬ。めやみ女が意氣だ
からといつても一寸かすむどか
少しめやにがでるとかいふ位の
處がよいので、全じめやみでも、眼
險縁かたゝれたり、手を引かれな
くては、あるけない様では、殺風景
のもので、それでもめやみ女の
方がまたようございます。が、風引
男をうれしが、る様では、いけませ

シャツを八枚着る様な人間はためです。健康なる精神は健康なる身体
に宿るといふので、身体がよわくてはだめです。一口いつては、ゴホンく
咳をして、二口いつては痰をはく様では、仕方がありません。年寄なりや
まだ仕方がありませぬが、若ひ者がそんなでは、しやうがない。そばかす
女も全じて、そばかすは、ドウも消化機なり、生殖器なりに、慢性の病氣の
ある者に多くあるので、まづ不健康の徴候といふてもよいので、にき
ひ男などは、論外です。日本人は、温泉場へいつても、湯にはいる外は、まづ
寝てくらす許で、ドウも散歩なり、運動をしないので、保養にいつて、反て
身体をわるくするのが多く、何をしても運動が、きらひてこまります。め
やみ女や、風引男を、意氣だなど、思つてゐるのは、國家の元氣にも關係
します。

第四十二 赤兒のめやみを看こ
なざる母親様方

赤兒でなくても少供衆でも同じですが、片方の眼からめやみが出るときは、ねかすときにドウかわるいめやみの出る方の眼を下になる様にかたねをさしていたいきたい初生兒膿眼といつて、いは、赤兒の風眼の様なめやみが流れる様に出るので、一方が悪いのに、寢し方をかまわないと知らぬ間に、一方の眼へやみが流れ込んで、一所にわづらう様になります。大人ですと一方がわるいときは、いは、一方の眼へはめやみの流れこまない様な眼鏡をかけさせますが、小供ではどうもうるさがつてかけさせません。御母さん方が氣をつけて、わるい方の眼を下にしてかたねをさせるのです。

第四十三 母ちゃんお爺さんの眼鏡
を私に頂戴な

五つ六つの御子さんが、チヨコくと御爺さんの机の處へいつて、そこにあつた眼鏡をとつて、御爺さんの真似をして鼻の尖端へかけて、何かおいたをする。そこへ御母さんか御出になつて、坊は何をして、お子、母ちゃんお爺さんの眼鏡を私に頂戴な、お前さんに上げたつて見えやしません。母ちゃん見へるよ、コレが御魚で、これが軍人ね、そうでしょうといふので、御母さんビックリして、こんな小さな子が御年寄の眼鏡で見るといふのは、これは何か病氣かもしれない、といふので、家中の評定がきまらないで、眼醫者の處へ騙けつけることになる、といふ様なことで、時々あります。これは、けつして御心配には及ひません。小供の眼は遠視といふて、老視といふ老人の眼と同じ様なので、病氣ではありま

せん、ドチラの御子さんでも同じ事でございます。一寸知らないで、ピン
クリすることがあるものです。

第四十四 はしかと眼

御母さん方に、モウ一つ御話しておきたいのは、はしかのことです。昔は
疱疹はみめ定め、はしかは命定といひまして、ドウしても、一邊はわすら
はなくしてはならなくて、御子を持つた御母さん方が、御苦勞の種でした
今では疱疹の方は、一寸種痘をしておけば、かゝらなくてすむ様になり
ました。が、はしかの方は、未だそうはいきません。尤もはしかは以前どち
がつて、大低の時の流行も、かるいものです。ですから心配しない方がありま
すが、これは中々心配な病でして、なる程昔の様に命定といふ様にすぐ
とられる可愛い御子がなくなるといふことは、大層少いのですが、はし
かのあとで、餘病を起すといふことは、大變に多いのです。小兒科醫者は

大變にはしかのあとでは、こわがつてゐます。小兒科の方に御さゝになれ
ばわかりますが、はしかをすると、一体に身体がよくなるので、今年は
流行つたはしかは、極くかるかつたのです。が、はしかのすむだあとで、体
がよわつた爲めに、眼がわるくなつた小供が、私の處へいくたりも御出
になりました。が、昔の様に命定だなど、さわがない丈、反ていけないか
と思ひます。もし御子様方には、はしかに御なりの方があつたら、はしかが
引ひたといつても、御油断なさない様に願ひます。そうしないと、あと
で、大さわぎが起つて、ないても追ひつかなくなる。ことがあります。子供
で、肺結核になるのは、大低は、はしかのあとだと、私は大學にゐた頃、弘田
博士に聞いたとがあります。

第四十五 眼病禁忌

「眼療穂住流秘傳」といふ本に、「養生無沙汰の人をとる事醫者の越度なり。」

とかいてあります。醫者の方で色々心配して、教へても病人が不養生でいふ事をきかず、そのくせ苦情はいふなど、いふ人が時にはあるものです。醫者が何も好んで不養生の人を診るのではありませんが、古の人は醫者の方の越度だといふておるので、こんな風ですから、古の醫者には養生だの、たち物だのといふとはやかましくいふてあります。眼病の人の禁物か、周郁眼目傳といふ本に詳しくかいてありまして、今日からいふても、まづ全じ様な者ですから、その本のを借りて列べて見ましよう。

- 一、姪犯、男なれば女、女なれば男、病中は慎むべしといふのです。
- 二、妄酒、飲みすぎるなどいふのです。が、すぎなくても、先づ禁酒がよろしゅうございます。尤もふだんが大酒なれば、少し位ねるときにでもやるのです。
- 三、湯遊、湯場遊はいけません。

- 四、力業、力仕事。
- 五、音曲、
- 六、行道、
- 七、遠見、
- 八、細工、面倒な根のいる仕事。
- 九、讀書、
- 十、光見、あかるい處で、仕事や讀書をすること。
- 十一、博奕、眼病でなくても、わるいのですが、讀書などより、何より一番精神をつかうでいけません。
- 十二、煙中、
- 十三、温熱食物、
- 十四、思慮、かんがへ事、病中はなる丈、色々なこと、話ささかぬがよろし。

十五、頭不灸鍼
尙ほひとつ十六、煙草

なんても病氣のときは養生が第一で、薬をのみながら、金をもうけ様のけんかをしようのなどは、いふのは以ての外のことです。氣を静にして、よくおちついて、夜ふかしせず、酒や女は元よりの事、つまり心配して氣を使ふ様な事は、一切きかぬ、見ぬ、いはぬ、とさめなくてははいけません。これは、眼病丈の話でなく、何の病ても全じ事です。

第四十六 病中食物の事

昔はせいが強いで病氣が出るといふ様に考へたのですから、病氣になると養生だなど、いつて粥や香物か梅干位をぐわせたのですけれど、そんな物では、普通でもいけないのに、病氣の時そんな物許食てゐては、榮養が悪くて病はわるくなる許です。何を食つていゝとか、わるいとか

いふとは、病氣でちがいますから、今は御話しません。が、わるい物は決してたべません。なぞ、いつて牛乳や、玉子や、鳥や、肉や、魚などといふ餘計にも食べていたゝきたい物を、丸でたべなくて、金魚の様に鉄をくはせたりしたのでは、全快するのがをそくなりません。

第四十七 近視

獨樂を廻すやら、蜻蛉を追ふやら、鬼ゴッコ軍遊び夫から夫と遊びあるき自由自在に思ふまゝにして、いたのが、満六つになつて、小學校へあがると同時に、何時までと定めもあるし、讀書なり習字なり、教へらるゝ事になるので、急に窮屈になつて、登校前の様に、自然のまゝで發育とができなくなる。それで、身体に色々云ふ事が出来る。學校の位地構造器械等が衛生的に出来ていないと、兒童發育を害し、甚しひ時になると、色々な病氣にかゝる。脊髓の彎曲、消化不良、貧血、頭痛等を生ずる様になるが

その外に尤も大切な眼に異状を呈する様になる、それはどうなるかといふと、近視です。近い處では見へるけれど、遠い所は見えない。先生に御願して前の列にいつてゐる、それでも見へなくなる。眼鏡をかけねばならぬ。眼鏡も段々強ひのでなくては要にならぬ。小學校から中學校、中學校から高等中學校、尙進んで大學校へゆくと、近視の生徒の數が次第に増して來ます。近視の多いのは、文明の徴候だなどいひますが、成程教育が盛になれば近視が増すので、文明の程度が近視の數



でわかるかもしれません。一方から考へると、いくら教育したからといつて、學校が衛生的に出來ていて、生徒が衛生上の注意を怠らなかつた

なら、近視の數は少なくてよいのです。から、近視の多いのはその所の衛生特に學校衛生の進んでおらん證據といつてよいのです。それはとにかく、近視です。世の中が狭ひ様な者で、山川の美だとか、花月の麗だとかいふものが、わからないので、或る人は自分の近視の事は知らなくて、誰れでも少し遠い處は見えない物と思ふておつたのが、或る時友人の近視の眼鏡をかりて、いたづらにかけて見た所が大さわざで、君あすこに山があるよ、あつちに御宮の屋根がある、といふのです。ソナ事は、めづらしくはないやね、といつたら、そうかね、といふので、それからは眼鏡を脱すことが出來なかつたそうです。なんと皆さん不自由な事ではありませんが、それで近視の度が進む程不自由の度も増すので、折角かけてゐる眼鏡も、くもると見へなくなるので、急に道でもあるいて汗をかくと、じきめがねがくもる。朝早く、あるくにも霧でもあると、すぐめがねがつかへなくなる。その不便などは、中々普通の人には、わからない不便で

す眼が口程に物をいふといひますが、近視ではそう自由には、横目もつかへません。ドンデルといふ人のいふたに、高度の近視眼の人は宇宙の萬象社會の活畫皆わかるとが少いで、どうも書物に對する想像推測等も少いのが普通で、顔色で自分の意を言外に示すなといふ事は出来ません。近視の御話をすると、中々一ト月や、二月ではつきないのです。まづ近視は極く不自由な物で、それでわるくなると、とりかへしがつかないといふこと丈を申上ておきます。

第四十八 學校衛生と眼科衛生。

學校醫と眼科醫。

教育の事は二十七八年の日清戦争後は、非常に長足の進歩をして、公私共に種々の設備が出来てまゐりました。そのうち一番行わたつて見ゆる事は教育といふ事が唯だ、智育ばかりでなく、智育をすると全時に

体育、德育といふ事にも氣をつける様になりました。これは、せひそうなくしてはならない事で、いくら智慧ができて、体がよわくしてはだめです。随分大學を卒業して、半年か一年の内に死ぬ人があります。それではその人々の家族の不幸許でなく、國家が大なる損害をうけるのです。智育と共に体育をしなければならぬといふ事から、學校衛生といふ事が追々やかましくなつて來ました。ドコの學校でも、學校醫といふものをおきました。この學校醫といふものは、生徒全体の攝生体育に關して、注意しており、机や腰掛が適當しているか、窓の具合はドウダカ光線が不十分ではないか、換氣法は不完全ではないかなど、いふ事に注意して、もしわるいと思ふ事があれば、學校長なり、監督者に告げるのが仕事です。決して、決して生徒の治療醫ではないので、學校醫になつて、患者がふへた積では、大變なまちがいです。何故こんな病人が多いだらう、何故、近視眼が増したかといふて考へないで、病人さへ見れば、自分か薬をやらう

自分の診断書でなくては、登校させないなどいふ様な事をする人が
 まちがいにもあつたら、大變な害を來たします。學校醫は治療醫でない
 から、校醫になるには、ドウしても、衛生的智識がいますのです。それで學校
 衛生學といふと、そのうちの十中七八迄は、眼科衛生學でして、私が岐阜
 におつた時、小學校や師範校の先生方を集めて、毎週一二時間宛、眼科衛
 生の講義をした事がありますが、眼科衛生に適應する様な學校なれば、先
 づ學校衛生上では、完全の者といふてよろしふございます。こんな風で
 すから、學校衛生のよく整頓した所では、學校醫の内に、眼科醫を置いて
 あります。日本では、大坂で、特に眼科の人を別に、學校醫としてあります
 これは、早晩、ドコもこうなるので、學校醫は二人宛にして、その一人は、必
 ず眼科専門のもので、やる様になるのです。地方衛生會にしる、中央衛生
 會にしる、高等教育會議にしても、眼科専門のものが、はいらなくては、ド
 ウも十分な衛生的教育をする事は、できません。

第四十九

親の因果が子に報ひ

(先天性眼病)

「親の因果が子に報ひ」といふが報ひられた當人こそ、飛んだ迷惑といは
 ねばならぬ。代は見てのおもどり、生きてるよ、くといふのに、釣り込ま
 れて、壹錢貳錢御出しになる方が、ドコの縁日にも澤山あります。私共
 は、奥山でも見られない様な、あわれな氣の毒な事を見もしき、もいた
 します。親の因果といはれると、別に喰つてかゝる處もなく、なき寢入
 りですが、親の放蕩が子に出るに至つては、子こそいゝ迷惑といはなく
 てはならぬのです。今日では、昔し天刑病といつていた、癩病も傳染病の
 一となりましたが、若し癩病が遺傳して、子供が人まじわりができない
 のは、かなしいながらも、親をうらむには、當りませんが、親が放蕩で、わる
 い病を、しよい込み、その子が生來不具になるのでは、子供はだれをうら

みましようか俗に胎毒だといつておるうちには、先天性梅毒が多いので眼も生れたときにもうつぶれているのもあるし生れるか生れないのに思ひたすともありますし時には十五六位になつて初めて現れるものもありません眼ではドコへ一番餘計に病が来るかといふと虹彩と角膜に來るのが一番多いので角膜實質炎虹彩炎といひます父親なり母親なりに梅毒があるとその子に毒が傳るのでして子供か生れても一生暗の世をすごさなくてはならないので人には不具だ片輪だといはれ悪戯の子供に犬をけしかけられて道端になきさけぶ所などを御覽なつたら、どなたでもかわいそうに御思ひてしようあれも人の子樽拾ひと雪の目によむだ人もあります中々ドウして子供の盲按摩がいたづら子供にいちめられたりひえきつた夜夜中にふるへ聲で上下三百文と流してゆく姿はドンナにいちらしいでしょうこの胎毒眼も早いうちに見出せば癒りますが生れてこないうちに赤兒がまだ御母さ



んの御腹にをるうちに眼を患ふのは私共眼科にはどうにも仕様がありませんこれは悪ひ病にかゝらない様にするより外はありませんまた萬一悪ひ病にかゝつたなら一日も早く療治をうけて達者になつ

ておかなくてははいけません一口に毒といひますが梅毒は大變によくきく薬があつて十分に醫者のいふことさへきけば全治のですけれどドウモ病人がズボラでこまるのです存外よくいふ事をきくと思へば少しよくなると何のかのといふてなげやりにするのでこまります思つた方の一生苦しむといふ許りでなく可愛い小供まで苦しませるので

から悪ひ病などは思われない様思つたら十分になをす様になさいましこの圖の女の子を御覽なさいそんなに貧乏の家に生れたのではあり

ませんが胎毒で一トつか二たつの時に眼に毒がさして来て始のうち
 は痛みもせずめやにも出なかつたものですからつひ手後れにしてし
 まつて、兩方共つぶしてしまつたのでこんな按摩の稽古をしているの
 です、御父さんはこの子が眼かづぶれた年の夏に鼻の障子がとれて冬
 になつて煉瓦竈の様に頭へ穴かあいたそうです。それでは大變後
 悔しているのです、親の方がわづらふのは、マア、他人から言へは、自業自
 得で、なんでもありませんが、子供の方は、ホントにかわいさうではありま
 せんか。

眼のはなし終

眼科史料蒐集廣告

一 日本、支那の眼科書(刊本、稿本、寫本を問はず)
 一 眼科醫若くは眼療をなせる醫の肖像、傳記、碑文、隨筆、記錄、書簡等
 一 眼科に関する器械、疾病等の圖譜
 一 此の外資料たるべき者
 小生儀日本眼科史料蒐集致し度候に付き上記各項に屬する者御所持の方は借覽御許し被下度候
 拜借中丁重に取扱ふべきは勿論往復諸費小生より支算可仕候尙重複すると有之候に付き前以て目錄御報被下候へはことに難有候

院醫科眼川小町番一裏市岡靜

白謹郎三劍川小

明治三十五年十月廿九日印刷
明治三十五年十月廿九日發行

定價金拾八錢

著者 小川劍三郎

發行者 大橋新太郎

東京市日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 水谷景長

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所 會社博進社工場

東京市小石川區久堅町百〇八番地

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館



醫學博士 高橋金一郎君著 (第四版)
通俗看病法
正價金拾五錢 郵稅金六錢
婦女子は常に看病の心を怠りて本
家の醫學上の事を知る婦人に
書は醫學上行ひ得るものと益なり
も容易に明し得るものと益なり
療法を記し得るものと益なり
問に行はるる看病の如く種々
の薬方を記したるものにあらず
名は多く俗間に行はるる名を附
て明白に知り得るものあり
切に其の歐洲に於て雷名を
ナイツゲルに於て雷名を
大家の氣を引證して其の
語の氣を引證して其の
を叙述する所は其の
代名を致せる重なり
り

西田敬止君著 (第八版)
育兒と衛生
全壹冊 洋裝判美本
能く健全なる小兒を生育し又
家族の健康を保つは是れ人間
第一の幸福の基なり著者親
切に平易明瞭に其次第を詳
し文字の足らざる處は鮮明優
美の畫を以て之を補ひ懇篤
らざる所なし世の文字を解す
る人々之を讀みて育兒衛生に
注意し玉は一家の幸福招か
ずして至るべし
正價金廿五錢 郵稅金六錢

醫學博士 片山國嘉君校閱
門協眞枝君著
精神病看護學
全壹冊 洋裝美本
正價金拾五錢 郵稅金八錢
本書は精神病看護學に關する書の嚆矢にして多年東京大學醫
科精神病學教室に於て研究診療に従事し且つ醫科大學高橋看
護法講習科講師たりし門協眞先生の手に成りしものにして流暢
なる國文を以て讀易く解し易く記されたれば教科書としても
参考書としても從來其の比を見ず今や看護法新に實施せられ
精神病院各所に起る本書の貢獻する所蓋し少からざるべし。

醫學新書

洋製總 醫學新書

醫學士石原弘君篇

藥物學

方今我邦藥物學の書乏しからざるも應用と學理に偏在して完全を得たる者なし獨り本書は最新の學說に據り公平に諸藥物の作用を論じ且つ其應用を精選し極めて平易に極めて簡潔に然かも細大漏す所なく叙述せり而して最も了解し易く記憶實用に便なる一種の分類法を用ふ又卷首には處方學一般を述べ各藥に處方例を添へ且卷尾に精細なる索引を附せるを以て其便利思ふべし左れば專門家は勿論一般人士必讀の書也

醫學博士片山國嘉先生校閱
王子精神病院長門脇真枝先生著

精神病学

今や精神病学の講究せざる可らざることを焦眉の急に迫まれり而も之が參考に供すべき者僅に一二種のみ、本書は多年東京帝國醫科大學精神病学教室及東京府巢鴨病院に於て研鑽診療に従事し王子精神病院院長たる門脇先生の手に成りし者にして専ら國情を顧み、つとめて臨床上應用の便をはかり最新聯想派の學理を經て内外先哲の經驗と著者多年の實驗とを緯とし、極めて平易に極めて簡明に、細大漏すところなく記述せり、加之數多の實驗例を添へたる細密なる圖畫索引を附せる、著者の注意甚だ懇切なり、されば醫家衛生家は勿論心理學者一般人士の坐右必讀の良典なること今更喋々を要せざるなり

全洋裝上製背皮美本
壹正價金貳圓
小包目方六百匁

(四)

醫學藥學得業士金澤巖君編 通俗治療救急法 第三版

全壹冊洋裝袖珍正價金參拾錢
郵稅金四錢

本書は衣食住婚姻育児防疫等の一般衛生法より諸病治療法看護法及藥品調製法急病頓死火傷等の救護法温泉海水浴轉地療養其他常に心得べき百般の衛生醫業に關する事項を細大漏す所なく詳細に記載し且文章平易にして通俗を旨としたれば何人も雖も常に一本を備ふべきものなり

佐藤保君閱 平野鏡君編

看病の心得

全壹冊
洋裝美本

正價金貳拾錢 郵稅金四錢

陸軍藥劑監石塚左玄君著

通俗食物養生法

一名化學的食養體心論

全壹冊
洋裝美本

正價金七拾錢 郵稅金六錢

本書は食物中に有る飽氣と鹽氣との能と毒どが人體に、人心に及ぼす所の道理を平易簡明に説述したるものにして何人も一讀を缺くべからざるの要書といふべし

本書目次

- 第一章 緒論.....人類は穀食動物なり
- 第二章 穀類及其他食品の化學的性質論.....
- 第三章 溫浴及發汗は人體の脫鹽法なり.....
- 第四章 夫婦亞爾加里の性質効力及結果論.....
- 結

(三)

82
539

家 庭 文 庫

華族女子學校監下田歌女子史著

全 部 二 十 冊

- | | | | | | | | | | | | |
|----------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| ● 第十二編 | ● 第十一編 | ● 第十編 | ● 第九編 | ● 第八編 | ● 第七編 | ● 第六編 | ● 第五編 | ● 第四編 | ● 第三編 | ● 第二編 | ● 第一編 |
| 泰西所見家庭教育 | 女子遊戯の | 女子作文の | 女子普通文の | 女子手藝要 | 家事の要 | 母親の心 | 婦女家庭訓 | 料理手引 | 詠歌の | 女子普通禮式 | 女子書翰文 |

正價一冊金參拾五錢 郵稅一冊金八錢

發 兌 元 東 京 博 文 館

五

東京

博文館出版

82

537

通俗眼のはなし

小川 剣三郎 著

060101-000-2

82-537

通俗眼のはなし

小川 剣三郎 / 著

M35

CBJ-0174

